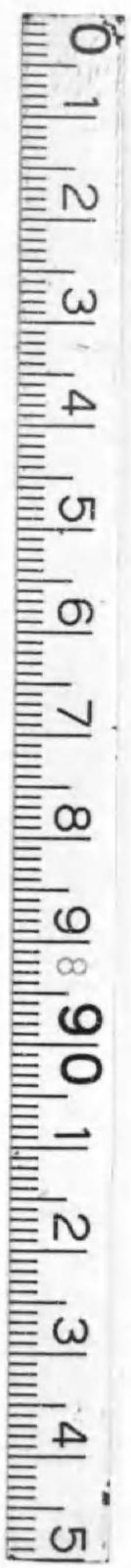


350
463



始



特 219
681

陸軍中將

福原錢太郎氏題字

衆議院議員
津市々々長

堀川美哉氏序文



人物月旦



株式會社 伊勢新聞社桑名支局編纂

陸軍中將 原田 一雄
陸軍少将 原田 一雄
陸軍少将 原田 一雄
陸軍少将 原田 一雄

字題 下関 郎太 錢原 福 級三功等二勲位四正 將中軍陸

序 文

「世の中」この短い言葉の中には幾多の複雑多岐な社會現象を包含してゐる、其の社會現象の因子をなす人類には多様の行路がある、本書は如實に之れを我々に知らしめる試みに其の内容を熟讀すれば鬚鬚として個々の人格、趣味、人となりに接する事が出来恰も舊友に巡り會ふ感を抱かしめる。而も赤裸々に正直に且つ簡単に「人間」を表現しているから人生の有益な羅針盤とも云へるだろう。

全冊を通じて詳細に現れる文面は恰も堅實なる人間社會の斷片であると同時に光輝ある奮闘史であると思ふ。

本書は現に活動する人々の参考となり將來活舞臺に入らんとする人々の座右銘ともなる寔に好讀の文字なりと信ず、敢て江湖に推奨する所以である。

堀 川 美 哉 識す

業を成し、世に出でた人々の経路を顧れば、そこに吾々は怒濤を噛み峻坂を攀登ろうとして奮闘する嚴な努力の姿を發見する。

◇
努力なくして奮闘なくして活路を征復することの不可能なる如く、人の立身榮達もまた奮闘なしで求め得られない。

◇
もとより世に出でし人々の行路は平坦ならず波亂曲折の跡なくして今日の榮達の喜びを歐歌する事は至難である、此れ等人々の奮闘史を緋けばそれは正に多技多様な人世行路の縮圖となり現代社會相の構圖となる

◇
自らの力及ばざれば他を倣らひこれに隨伴することもまた一つの處世の術に違ひない、よつてかゝる世の人の姿を妙録して他の龜鑑とし、また偉傑の功績を久遠に傳へんとする、蓋し本書を編纂する所以である。

桑名にて

昭和八年六月 日

著者 識す

福原 錢太郎 氏



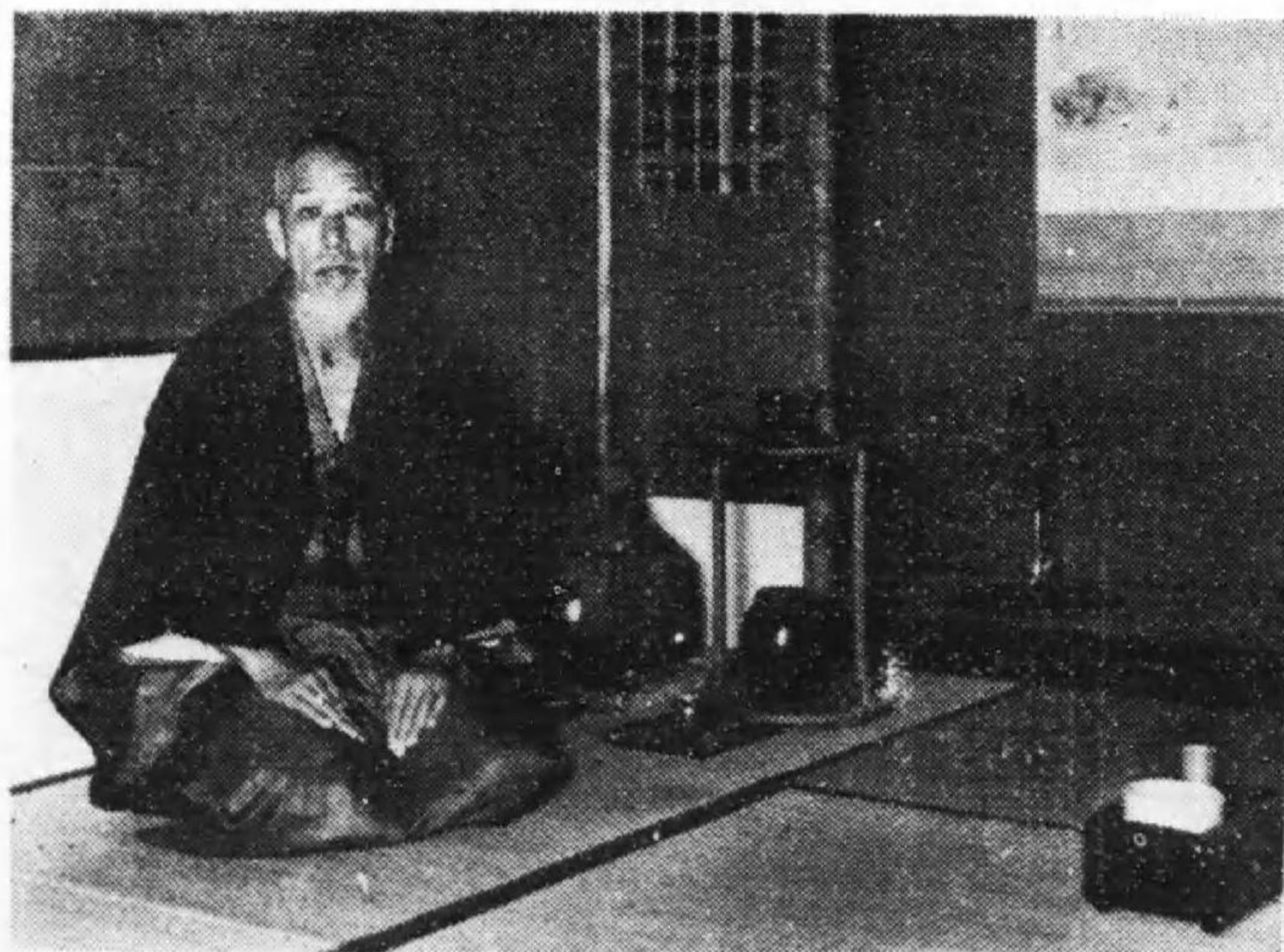
貝塚 榮之助 氏



故 諸 戸 精 太 氏



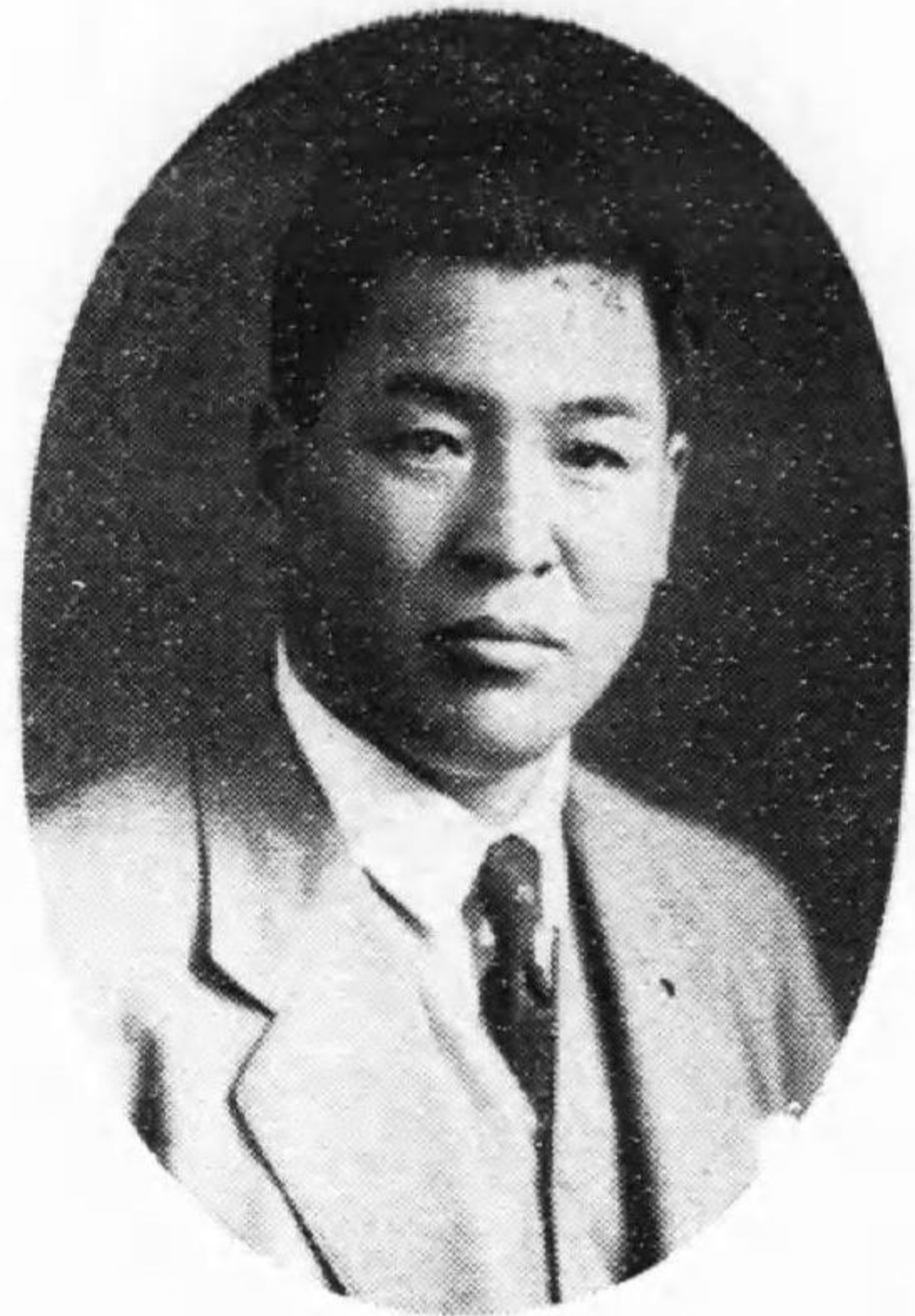
加 藤 久 米 四 郎 氏



室 茶 卜 氏 郎 太 數 葉 千



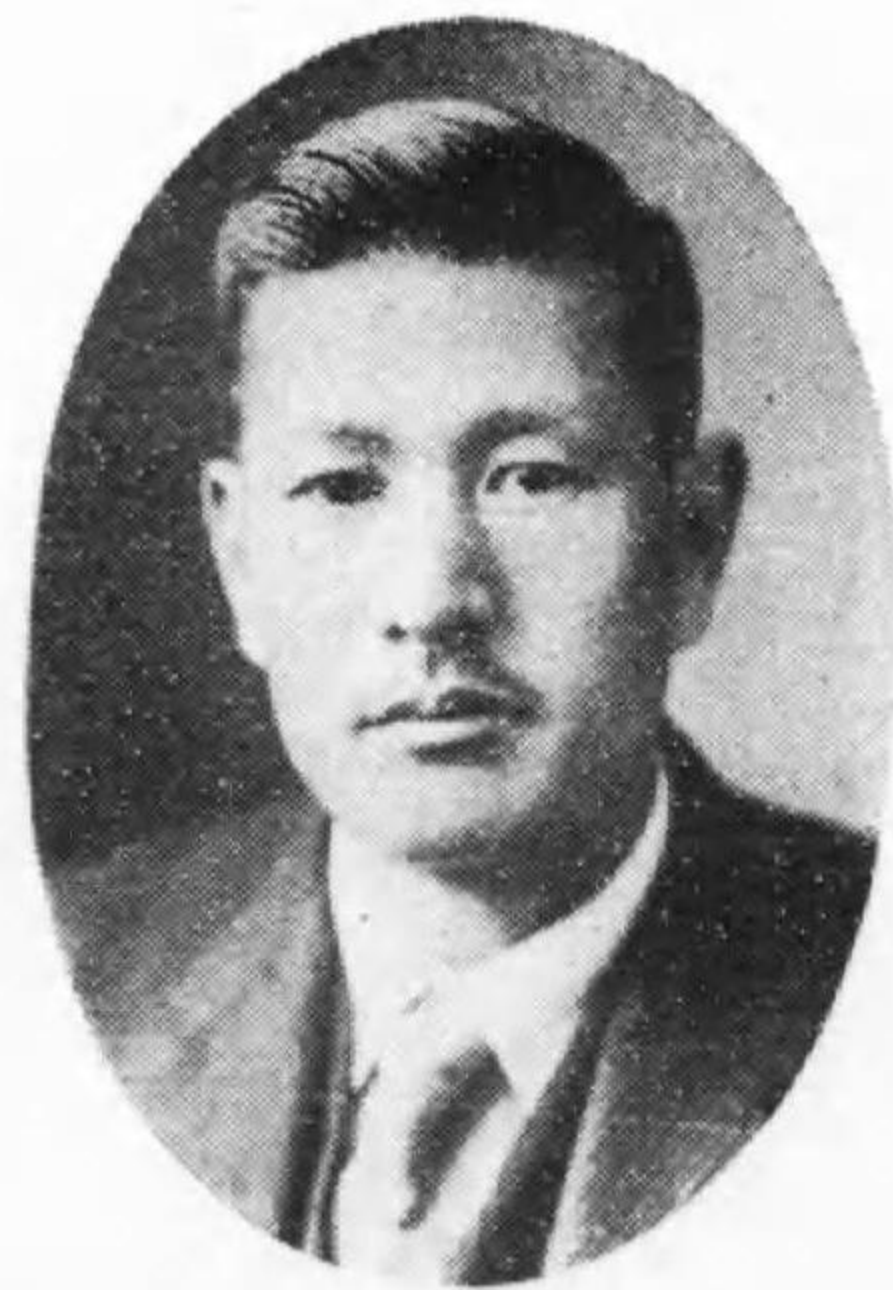
松 本 長 藏 氏



水谷 榮 氏



水谷 又造 氏



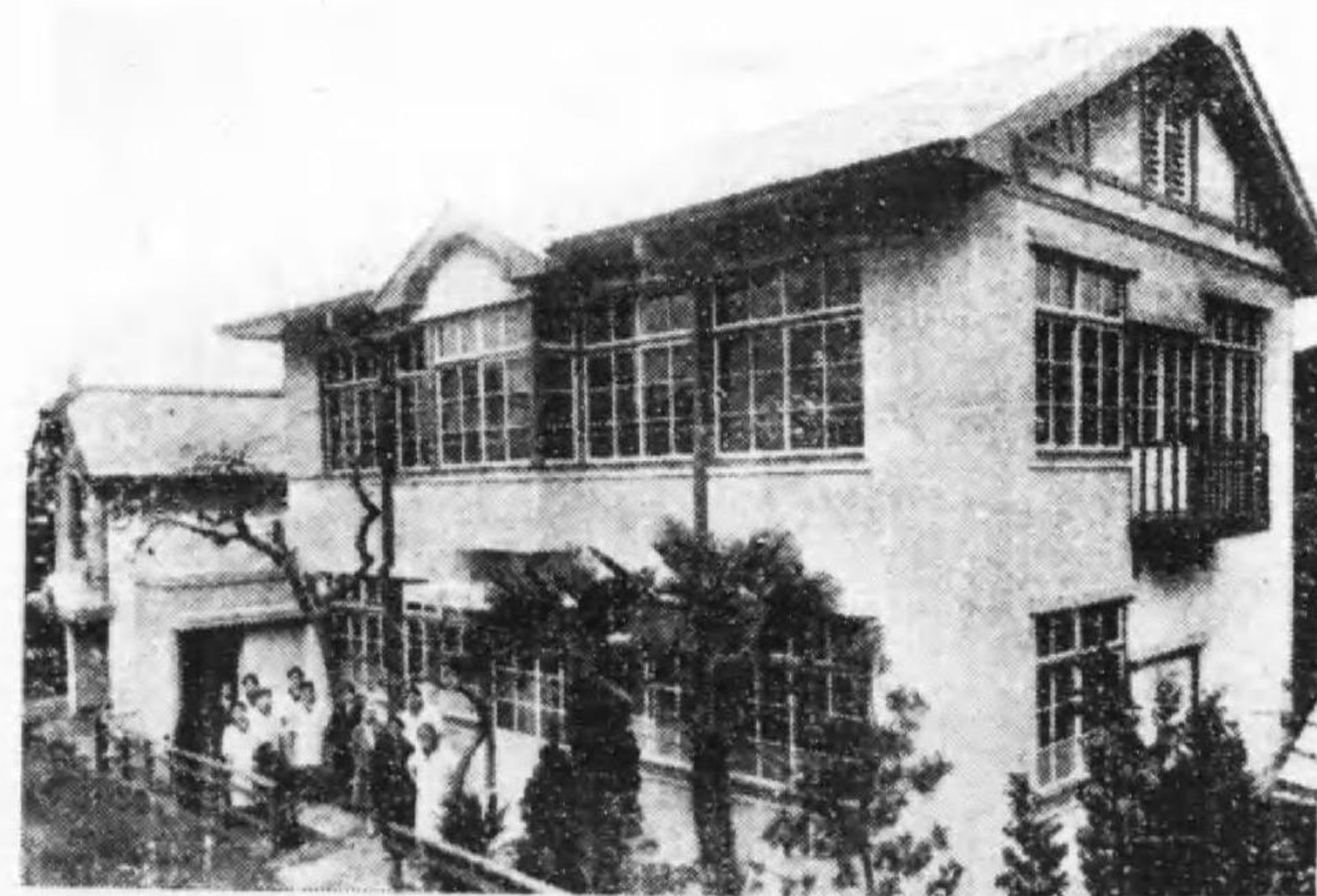
水谷 昇 氏



淺井 病院 院長



諸戶 清六 氏



淺井 病院 室一ノ博 物標本室



氏郎治重本山



氏郎太清谷水



氏一池小



氏郎次清藤伊



氏助茂野水



氏郎太清田山



田中郁三氏



稻垣專八氏



木村秀興氏



佐藤信之助氏



伊藤清六氏



水谷吉兵衛氏



氏一文瀬河



氏一徳原石



氏一文川岡



氏郎次逸達安



氏一晴田奥



氏華瑞井福



氏久安田山



氏男銳田吉



氏助之長谷水



氏郎次德村中



氏藏節間岩



氏吉貞井二



氏作利原桑



氏太榮村竹



氏雄義井五



大橋弘吉氏



大橋徳治郎氏



黒宮五郎氏



奥國太郎氏



青木銀三郎氏



西塚善次郎氏



加藤輝三氏



久村源助氏



神野嘉郎氏



坂作藏氏



長谷川正氏



星野彌兵衛氏



平野助右衛門氏



日紫喜佐門氏



桑原新吉氏



内田定吉氏



佐藤三郎氏



加賀月華氏

人物月旦の編纂に就いて

人物月旦……。至極樂さうで比較的むつかしいのは、此の種の編纂である。舞臺面に現はれるものには、實業家あり、官吏あり、教育者もあれば、會社員、宗教家等もある。是等種々雑多な人の生活内容を調べ、生立ちを調べ、歴史を調べてその上短評を下さうとするのであるから、直接本人に面接もせなければならぬし、其の人に對する社會の批評も聽かねばならぬ。事業の計劃内容等にも、吟味の眼を注がなければならぬ。かかるが故に、相當是等各種の理解能力を持つて居なければ書けるものではないからである。その上時によれば、一人に面接するに、十數里の道を數回足を運ばねばならぬかと思へば、嘘八百まくしたてられる事もないではない。時には在宅でありながら、門前拂ひを喰はされる憂目も見るともあれば、或は「新聞ゴロ」の様に解釋されては、敬遠される事も決して少くはない。

往時當地方に於て、此の種の企も幾多あつた様であつたが一二を除き皆未完成の裡に、立消えになつてしまつたのも他に原因もあらうが主と

して是等の支障と、困難の爲であつたのでであらう……。

然るに今回吾人無力、淺才、不徳の身を持つて、此の編纂を見るに至つた事は、吾々の力にあらすして、吾人を庇護し、後援して下された各位の力の賜物であつた事を痛感し、衷心感謝の意を表する次第である。

尙此編中以外多くの人物月旦も集つて居るが、餘りに大部になるのと發刊時日が自然おくれるがために、第二編に譲る事にした様な次第である。

文中誤れる所、正鵠を失する所等決して尠くはないと思はれるが、忙中寸暇を求めての編纂なる事に同情せられ、寛恕を乞ふ次第である。

重ねて、此計劃に賛助並に後援を與へられた諸賢に對し、萬腔の感謝をなすと共に、後編の編纂に當りても、一層の御援助を乞ふてやまない。

八、六、二〇

藤原岳麓にて

氏木信太郎識す

目次

(順次不同)

福原錢太郎氏	一	水谷榮氏	二	松田鍊太郎氏	四〇
加藤久米四郎氏	三	伊藤清次郎氏	三	葛山照吉氏	四一
諸戸清六氏	四	伊藤榮氏	三	石原徳一氏	四二
汾陽光二氏	五	水谷長之助氏	四	片山政治郎氏	四三
貝塚榮之助氏	六	長谷川正氏	五	桑原利作氏	四四
稻垣專八氏	八	淺井平一郎氏	六	桑原新吉氏	四五
清水谷徹氏	九	安達逸次郎氏	六	出口久明氏	四六
加賀月華氏	一〇	千葉數太郎氏	元	嵯峨平六氏	四七
竹村榮太氏	三	奥田晴一氏	三	門脇欽吾氏	四八
水谷孝三郎氏	三	大橋弘吉氏	三	福井瑞華氏	四九
久村源助氏	五	黒宮五朗氏	三	谷古正賢氏	五〇
田中郁三氏	六	西田源藏氏	三	内田所左衛門氏	五一
日紫喜佐門氏	七	後藤周治郎氏	三	伊藤幸次郎氏	五二
坂作藏氏	八	石川清氏	三	和波久衛氏	五三
水谷吉兵衛氏	九	松平家晃氏	三	廣田善太郎氏	五四
伊藤清六氏	一〇	慧日院嚴量師	元	大橋徳治郎氏	五五

星野彌兵衛氏	吉田銳男氏	水野茂助氏	平岡文次氏	宮島武夫氏	二井四郎氏	木本祐三氏	渡邊貞治郎氏	小林慶次郎氏	渡邊猛氏	水谷長平氏	水谷清一氏	山本重治郎氏	松本鍼雄氏	小寺銈次郎氏	藤田平太郎氏	五井清哉氏	河瀬文一氏
五	五	五	五	六	六	三	三	四	三	三	三	六	六	七	七	七	三
渡邊七三郎氏	伊藤覺左衛門氏	稻垣久實氏	松本長藏氏	竹川信太郎氏	木村秀興氏	伊藤紀兵衛氏	鳥谷尾友次郎氏	水谷又造氏	平野助右衛門氏	森喜兵衛氏	伊藤元次郎氏	渡邊覺右衛門氏	奧國太郎氏	瀬田功氏	佐藤三郎氏	小池一氏	山田安久氏
五	五	五	七	六	六	六	八	三	三	四	五	六	七	七	七	七	三
二井貞吉氏	岩間節藏氏	神野嘉郎氏	内田定吉氏	三重相互無盡株式會社	名古屋銀行	桑名金庫	赤須賀漁業組合	三重縣立員辨實業女學校	縣立桑名中學校	縣立桑名高等女學校	行樂の最適地	員辨郡七和村紹介	桑名郡概要	桑名町概要	西桑名町概要	員辨郡概要	昭榮館
五	五	五	六	七	九	一〇〇	一〇三	一〇五	一〇六	一〇九	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一〇

陸軍中將
正四位勳二等功三級

福原錢太郎氏

桑名郡長島村

名家望を語る

【1】
武官として戰場に馳驅し、赫々たる戦功を樹て、功成り名遂げて故山に起臥するに至りては郷黨の人望を一身に蒐め、桑名町長として敏腕の聞え高うし今また病軀を携へて本年四月迄本村々長として自治の局に當り縣會議員を兼ねて地方政界に重きをなしてゐられた陸軍中將正四位勳二等功三級福原錢太郎閣下は慶應三年二月桑名郡長島村の地に出生され明治十七年陸軍士官學校に入學せられ同二十年卒業、少尉任官ついで陸軍大學校に入學、業なりて卒へるや帝國干城として至誠を竭す二十七年旅團副官に任せられ戦地出征、其間士官學校教官、參謀本部々員、近衛師團參謀等に歷任同三十五年少佐、三十七年日露戦火に投じ戦功を樹て、三十八年十二師團參謀長四十年歩兵六十八聯隊の創設さるや初代聯隊長

【2】

拜命、後朝鮮の聯隊長等に歴任、大正三年少將に昇進せられ第二十六旅團長に補せらる。大正五年八月滿洲獨立守備隊司令官、大正七年中將に昇進、大正八年一月豫備編入、其多年の功に依り正四位勳二等功三級に叙さる。大正九年桑名町長として信頼され、大正十一年縣會議員に當選され中堅議員として二期務められ、桑名町長を退かれるや昭和六年病体にもかゝらず生地村民の懇望により推して村長の激務に携り、公正果敢の裁斷振り、は舉村の信頼と畏敬を收めてゐられたが本年四月病氣加養の爲退かれた。閣下は一面和氣陶然たる一個の好翁である。

加藤久米四郎氏

【3】

當選五回正五位勳四等前拓務次官、明治十七年十月桑名郡西桑名町に生れ同四十一年日本大學を卒業して多年同大學幹事としてその經營の任に當り、のち内務大臣秘書官並に明治神宮造營局參事、社會事業調査會幹事に任せらるゝ、事三回昭和二年田中内閣の組閣と共に内務參與官となり同六年十二月犬養内閣に際し拓務次官に擧げらるゝ、又衆議員たる事五回昭和三年度の改選より引續き三回に亘り第一位を以て當選し、昭和七年二月改選の際も全國の上位で當選された、曩に日本發明品製作會社社長、日本特許インキ會社取締役たりし事あり變骨稜々たる体格を有し談論風發四筵驚かす威勢のよい人物にして斗酒尙辭せずの酒豪として知られてゐる、尙同氏は過去に於て中央衛生臨時委員、保健調査會委員、特別都市計畫委員會臨時委員、人口食糧調査委員等を被仰並に神社調査會委員、港灣調査委員等に任せられたが現在では政友會の最高幹部として中央は勿論全國的に活躍をなしてゐられる。

【4】

名望高き
諸戸殖産會社經營者
る語を家望名

名望高き
諸戸殖産會社經營者
諸戸清六氏

諸戸清六氏は現在西桑名町に住居を構へて居られるが一代の偉傑先代清六翁の第四子で早稻田大學卒業後大正十年頃歐米漫遊後健康を害し一時静養をなしてゐられたが最近は元氣充溢し事業として諸戸殖産會社を興して農林事をなし天下の富豪として人格識見を知られてゐる其他朝鮮の全羅北道に大規模な三重農場を經營し三菱鑛業株式會社の監査役を務めてゐられるが同氏は一人一業主義を尊ぶ人で其處に諸戸氏の意志の強固な半面が窺はれる。

前桑名町長
前三重縣町村長會長
る語を家望名

前桑名町長
前三重縣町村長會長
正四位勳二等
功五級
汾陽光二氏
三重縣桑名町

【5】

町政自治の發達は其衝に人を得る事にある、古來東海道の要津として重きをなした桑名町に名町長として盛名噴々たる陸軍中將汾陽光二氏がある。氏は夙に陸軍幼年學校を経て士官學校に進み明治三十年少尉に任官、熊本歩兵第十三聯隊附同三十三年歩兵第十一旅團副官となり、明治三十七年歩兵第十三聯隊中隊長として日露戰爭に砲煙彈雨の中をくゞり同年十月沙河大戰に名譽の負傷をし、翌年五月士官學校中隊長を拜命、以來益々進級され大正六年桑名聯隊區司令官に轉任、八年大佐に昇進し同九年鯖江の歩兵第三十六聯隊長を拜命、大正十年シベリア出征同十二年少將に昇進第十一師團司令部附となり翌年第二十七旅團長、昭和二年滿洲駐劄守備として鐵嶺に駐屯三年五月奉天に出動中陸軍中將に榮進由良要塞司令官を拜命し翌年豫備役となり斯くて昭和五年八月桑名町長として自治政の要職に就かれ町教育會長を兼ね同六年縣町村長會長を兼任して爾來現在に至る。

町制自治に活躍された
令名ある

貝塚榮之助氏

三重縣桑名町

夙に社會教化に奔走し且桑名町社會事業助成會長として其方面に盡瘁し更に早くより名譽助役として町政自治の發達に貢献せられ過般圓滿に併合なつた桑名町益生村の關係に盡力せられた貝塚榮之助氏は、又他面桑名町實業界錚々著名の人物である。氏は明治十五年八月十日先代卯兵衛氏三男として孤々の聲を揚げた。卯兵衛氏は米穀並に株式取引を業とし且當時の桑名紡績を創立し當地方實業界に著聞された方であつた氏は明治四十三年東京高等工業學校を卒業し名古屋電燈株式會社技師として勤勉なるサラリー生活を續けてゐたが大正四年家督相續して父祖の業を繼ぐに當り電燈會社技師としての生活に別れを告げ松阪工業學校に教諭として教育に従事し後再び業界に飛躍して全面的に活躍し

現に株式會社高岳製作所社長、桑名瓦斯株式會社社長、株式會社山中清賞堂社長、桑名電軌株式會社重役等を兼任し且近くは三重縣農工銀行取締役、に就任等業界に其の卓越非凡の手腕を揮つてゐる。氏は資性溫篤にして且勤勉而して業界は元より當町大衆より偉大なる尊敬と信頼を受けられていられる、寔に人格崇高識見高邁當町名譽助役としての貫録や十分であり氏は更に當地方のみに非ず夙に東京市内に内外編物株式會社の創立に盡力し取締役に就任し新進氣鋭の意氣を失ふ事なく帝都業界に雄飛せられてゐる。氏は尙不惑に達せず今後將來に亘りて桑名町百年の大計を樹立し町是を確立し殖産工業の爲に盡力し名實共に備はる大桑名町を建設される事であらう。家庭には二男三女がある。

三重縣々會議員
阿下喜町長

稻垣專八氏

員辨郡阿下喜町

『阿下喜よいとこの山の街』と唄ひ込んだ阿下喜小唄は廣く愛唱されてゐる。此の小唄は氏の令閨八千代女史がそのゆたかな詩想をねつてつくられた唄である。縣會議員町長稻垣專八氏は地方政界及實業界を通じての超弩級の人物の一人である。抑も稻垣家は一志郡より當地に移轉せられてから十九代累代酒造を業として來られて先代專八氏は剛毅豁達舊阿下喜村長縣會議員三重縣農工銀行監査役北勢電鐵專務取締役等を歴任して令名一世に高かつた。氏は其の長男で明治三十一年生れ早稻田大學政治科を卒業大正十五年父君專八氏の逝去の後を承けて家督相續し阿下喜町助役を経て昭和二年七月阿下喜町長に推され爾來剛腹才腕を以て町治に處して治績顯著殊に昭和四年三月町制施行の大業を達成し現縣會議員、町長の外消防組頭、北勢鐵道株式會社取締役、員辨乾繭株式會社長、郡畜産組合副會長等を兼任し治績亦顯著隆々たる聲名を擅にし資性快活スポーツを趣味とす。

宮城縣學務部長
正六位高等官四等

清水谷徹氏

氏は東京帝國大學法科出身の法學士である。氏は小中學と學を序を追て進み長して東都に笈を負ひ大學在學中より秀才として知られ帝大在學中に高文にパスせられた方にして帝大を卒業せらるや直に高知縣屬を拜命せられ一意専心に奮闘努力せられたる結果抜き出られて半ケ年もたゞつして三重縣飯南郡長榮進榮轉され大正十五年六月三十一日郡役所廢止と同時に青森縣事務官財務課長に榮轉せられ尙其後愛媛縣事務官に榮轉現宮城縣學務部長に累進せられ今日の要席を占られ氏は細密にして資性温良で部下を愛するに厚く誠實で大膽なる性質はよく、複雑する縣政事務に精通せられ見るに遺漏なし處理せられ未だ撫氏の立案に誤りあるを聞かない努力ぶりで目覺しい活動ぶりである。尙亦長官級の人物に呼ばれる時の來るのも遠くあるまいと一般の觀測である。將來政治家として飛躍せん、志を立て其の用意の途にあるとの事なるか、氏の如くに學深く才あり人格高い人物は郷土に喜ひ迎ふる事であらふ。

三重縣桑名春日前

萬古窯業

清香堂 加賀月華氏

大正十年本業の金物商を愛弟喜一氏に譲りて工藝界の爲に古萬古焼の再興を企て陶技の一切他人に托まず製法も他に師事せず沼波弄山氏の作風に新味を持たせて現代的美術工藝品の製作に従事し北勢の暖簾たる言葉にそむかないのである。縣や町を代表して献上品の製作に當る事數十回に及ぶが其内の重なるもの

閑院宮殿下、秩父宮殿下、高松宮殿下、皇太后陛下、賀陽宮殿下、東久邇宮殿下、村雲尼公殿下

閑院宮春仁親王殿下、東伏見宮妃殿下

其他天覽台覽數回

一、帝展第十回より連續四回入選

一、商工展入賞受賞數回

一、日本美術協會入選數回銅賞四個受領

近くは東京府商工獎勵館に於ける商工展へ無鑑査出品をなし畏くも竹田宮家御買上の光榮に浴す、

其他公私設展覽會入選受賞等數回

氏はかくの如き多忙なる工藝界の第一線に立ち製作の一切は他人にたのまぬと云ふつむじ曲りのくせに餘技多方面で金魚、鶯、かじか、盆栽、洋草花、山草、朝顔等の趣味深く殊に朝顔造りの名人と云はれて居り昨年は曲尺七寸二分と云ふすばらしい花を咲かせた人で工藝なら何でもこいと云ふ多趣味で今桑名中學校で開催中の美術展覽會へも繪畫二點と蠟燭染女丸帶等がその餘技作である。何の方面によらず其の技術玄人の域を凌ぎ、非常に深く蘊蓄を極め今の成功を收め得た奮闘史中の一人である

外科術で令名高き

桑名病院長

竹村榮太氏

北勢に於て有名な桑名病院は内科、外科、レントゲン科、小兒科、産婦人科等の設備が完備し且醫師も親切丁寧をモットーとしてゐるが、特に院長竹村榮太氏は明治八年九月一日長野縣諏訪郡水明村に生れ、松本中學、第四高等學校、東京帝大醫學部を卒業後、更に同校附屬病院に助手として勤め實地研究をなしてゐたが明治三十九年三月桑名病院長として就任して來たが大正五年に至つて遂に之を買收し、獨力を以て經營、現在に至るものであるが氏は刀圭界稀に見る名醫として令名高き人で各官公衙の囑託醫を兼務してゐる。

同病院は何れの科も頗る評判がよい。

三重縣桑名

御菓子司「花の舎」主人

水谷孝三郎氏

氏は現町に於ける各種の役員を勤めて居られるが社會の毀譽褒貶には一向頓着しないと云つた様な方で其の固い事と圓滿主義は町内は云ふに及ばず各方面の方に信頼されて居られる。

本業の製菓の方面には文字通り精進努力されてゐる。日本中の御菓子司屋中で茶の湯に用ひる御菓子屋さんを數へると、水谷氏の花の舎さんは立派に五指の中に數へられてゐると、先代の諸戸清太氏から折紙を付けられてゐる。殊に蒸菓子の雅味は不味候お出入りの雲州菓子屋以上であると云はれ、益々名を擧げてゐる。それだけ自分に於ても茶湯の趣味の深いと云ふ事は云ふまでもない。

それのみか同氏の趣味としては京都の樂燒卅六歌仙など、又華々會をつくられ「南奈かたみ」といふ俳句の雑誌を發行されて、毎年春秋二回に會合されてゐるが此の會は花の舎さん出の店子の方で四日市の有名な國華堂の主人が先年他界の際一同が會合して生れたものらしく、尙現在製菓の方法に就ても同雑誌を資料として二十五名餘の多勢の人々が種々製菓の研究をして見へる様である。

【14】

此外水谷氏の趣味を二三列挙して見ると毎年の餘技展に出品して其の立派なお手際を發表されてゐる。特に一閑張は大變な御得意で其の出來榮えは京に於ける飛來一閑でさへ跣足で逃げると云ふ位である。同氏は其他に登山の趣味もあり、かつての大正九年の八月頃富士山に友人、店の人數名が登山の際、ゲートルの代用として綱帶を使用したので人々が其の理由を聞いた時に、水谷氏は欣然として外見は悪いが不時の傷害を受けた瞬間に傷の手當に使用出来ると云はれたので一同が其の用意と奇智に感心したとの事である。同氏は亦篤行の志し深く、大正二年桑名町第三小學校で開催された物産品評會の席上、協賛の意味で數百人の來賓諸氏の茶席を自己一人で無料で引受けられ、時の郡長から感謝狀を贈られた。氏の如き思想の堅固にして篤行の人は少く、圓滿主義で且手堅く温情主義のため人望の厚いのも當然である。

三重縣桑名吉津屋町
桑名盆の由來と
久村源助氏

技人の人を尋ねて

【15】

桑名藩がその廢藩當時に思ひ立つたおさむらひの商法に膳椀の塗師が多かつた。其の元締とも云ふ、つまり今で云ふ資本家事業主と云ふべき役割をやつてゐたのが即ち久村源助氏から二代前の祖先で、云ふまでもなく藩のお出入商人であつたのである。當主久村氏は其跡を受けて努力してゐられるが、氏は温厚熱心で親切眞面目な方である。「桑名盆」我が國漆器の産地多しと雖も其名の世間に著るゝものは指を以て數ふる位しかない。抑も桑名盆の世人に知られ初めたのは工藝資料及び桑名名所圖繪等の書に依る今其の沿革を舉げて見ると、古來其の塗に青黒の二様あつて、表面には野菜、果實、草花の類一種を描き、其の畫は古畫にし頗る雅致あり、地質堅牢なる事決して他の漆器に劣る所はない。中興に桑名舊藩主白河樂翁公の蕪の畫を畫かして、幕府に献上して以來、蕪善盆の名一層廣く世に著れる様になつた慶應二年、舊桑名藩に於て生産局を設置せられて、漆器の製造を創めらるゝや、久村源助氏は之が擔當を命ぜられ、廢藩の際、同局解散となりしも、此の器の中絶せん事を嘆き千辛萬苦して之が維持の方法を功究し、其の辛苦の効あらはれて今や盛に之が製造日に盛なるを見、其の質の堅牢にして克く永久に堪ゆるにより顧客愈々多く、販路益々擴張されてゐる。

【16】

名家望を語る

天下の銘酒
玉菱醸造元

田中郁三氏

員辨郡大泉原村

氏は明治六年八月二十五日同郡十社村川瀬家に生れた人明治二十七年當家の養子となり専念家業に精勵して父祖の遺業を益々發展せしめ、外は政界に活躍して命名噴々、玉菱の名と共に香ばしく大泉原村此の人あるを偲ばしめる之當家は代々の庄屋であつて幕府時代より自治政向きに關係をした。家業は祖父時代天保八年より酒造業を創始したのであつて年々歳々芳名を謳はれ李白黨をして垂涎萬丈の思ひあらしめ今の發展を視るに至つたのである。先代養父は九十郎氏であつた公共の爲に盡力した人である。明治三十七年氏に相續せしめた氏は既に村會議員として二十七年にも及び縣會議員は大正四年より郡會議員は二回勤めた其他種々の役員を勤め桑名酒造組合副會長、北勢鐵道株式會社取締役等の多忙の身である。令夫人は三男を擧げ長男九郎氏は高商出身の秀才で家業に従事せられてゐる。

【17】

名家望を語る

郵便局長
正七位勳七等

日紫喜佐門氏

員辨郡大泉原村

代々堅實なる農家であつた。日紫喜氏の先々代を九左衛門先代を佐之八氏と云つた、君は其の長男で明治三年六月十五日生れである。先代は村會議員として終身村治に盡瘁した人であつた。氏は最初當地小學校教員となりて八年程教鞭を執り、兒童教育の任に當つたが以後は稅務署の官吏となり、愛知縣、三重縣、石川縣、東京市等の官吏の外富山、福井、埼玉縣等にては、稅務署長として勤務し明治四十三年には韓國政府の聘用大正二年退職して歸國同官界を退いた。明治三十一年稅務屬となりて以來十六年間であつた。大正四年郡會議員同參事會員となり、大正十年一月四日大泉原郵便局長拜命創立四代目の局長である右の功により同年勳七等、昭和六年十月正七位に叙せらる。現村會議員、桑名乾繭株式會社取締役である。局舎新築特設電話は氏の功である令閨は一男四女を擧げ長男聰明氏は前村長を勤め末嬢は皆良家の夫人である。

名望家の語を

三重縣員辨郡笠田村
三重縣農工銀行大泉原支店長
坂 作 藏 氏

氏は現三重縣農工銀行大泉原支店長である。明治三十年津市に生れた。夙に東京に出て明治大學に入りて大正九年九月同大學英文科を卒業し然る後、大正十二年二月三重縣農工銀行本店に行員となり常に得意とする才機を利用して大いに同行の爲貢獻され大正十二年十一月現職を命ぜられ今に至つた、將來銀行界に立ちて飛躍を試みん事を期してゐるが同氏は中學、大學時代はスポーツに興味を持ち特にテニス、野球、ボートの選手として活躍し斯界のナンバーワンと云はれた程で現在は農工銀行に關係がある爲農村の開発に力を注いでゐられるので一般から非常に期待されると共に前途を祝福されてゐる。

名望家の語を

桑名電軌株式會社社長
同 土地建物會社社長
實業家 水 谷 吉 兵 衛 氏

三重縣桑名今一色片町

桑名郡實業界の飛將水谷吉兵衛氏は明治三年七月十七日の出生にして幼名を房治郎と稱す。父君吉兵衛氏は精米問屋を經營し斯界に著聞したが明治十二年逝去と共に廢業した。氏は同廿六年取引所仲買人となり同四十四年東京株式取引所仲買合資會社高山商店代表社員となり大正五年代表社員を退き取締役となり今日に及ぶ、同八年桑名取引所理事長に擧げられ大いに才能を揮つたが昭和六年十二月解散と共に之を辭す。其後桑名電軌土地建物兩株式會社社長に就任し同社の經營に専心當つて今に及んでゐる。他面卅有餘年町會議員の公職にあり町政に寄與するとこゝろ頗る多い。因に長男房治郎氏は早大の出身桑名驛前郵便局長たり。

名望家の語る

天下の銘酒

「國の春」醸造元

伊藤清六氏

三重縣桑名吉津屋町

曩に町會議員、郡會議員、所得稅調查員、桑名商工會副會長、米穀取引所監查役を歴任し現在桑員酒造組合長、桑名電軌株式會社專務取締役、桑名土地建物株式會社專務取締役、中央度量衡株式會社取締役を兼ねて財界に一大勢植してゐられる。

伊藤清六氏は明治三年九月二日の出生にして故清六氏の長男である。當家は舊旅館業を經營し先代清六氏慶應年間味淋醸造業を創め明治二十七年より酒造業をなす、其後味淋醸造を廢するに至り有名な島清商店製「國の春」は頗る聲價高い。氏は夙に其手腕を知られ今や桑名郡で第一等の人物と自他共に許してゐる。

因に長男清一郎氏は桑名町商工會監事、同社會事業助成會理事を勤められ同氏は公人としても私人としても表裏相去らぬ着實の意見を支持し今の世の動搖し易い思想界には珍しい信用氣質な方である。

名望家の語る

桑名郡教化産業團體事務所主事

桑名郡青年團副團長

桑名町會議員

水谷榮氏

氏は桑名郡教化産業團體事務所主事、同郡青年團副團長、桑名町會議員等の要職にあり赭顏肥大、鬪志満々たる風貌を備へ、筆舌に長じ篤實温健の士にして常識亦能く發達し事に望み礙滯することなく最も適正に處理運行する才あり。郡内の自治産業教化凡ゆる方面に全力を傾倒せられつゝあり誠に感服に堪へざる處なり、過般圓滿に併合なつた桑名町益生村の關係には益生村長として盡力せられた、亦昭和八年三月二十九日大桑名市建設の桑名町益生村併合最初第一歩たる町會議員選舉開票の結果定員は三十名當時候補者は五十人近くもありしも、二八九票と云ふ最高点で一位を獲得せられ見事當選せられたが將來大なる抱負をもつて居られ趣味としては純日本趣味で刀劍、國産犬等で音樂等も純日本味を愛好せられてゐる外徳富蘇峰氏を崇敬せられてゐるが同氏の將來の活躍や刮目して見るべきもの多く各方面から期待されてゐる。

氏は現桑名町會議員、桑名商工會役員、桑名貸座敷組合長、三重縣貸座敷聯合會會計監督である。頭腦明敏にして爲人義侠心に富み國家觀念に篤く夙に愛國赤誠の同志を叫合して國粹會桑名支部を組織し、國論の統一、國家觀念の養成に務めていられる、伊藤清次郎氏は桑名郡城南村の人明治二十四年九月一日清六氏の五男に生る。若くして土木建築請負業を営み傍ら政治に手腕を揮ふ政黨政治の腐敗思想の悪化を痛く憂へ國粹會等を組織し自ら理事幹事長となり指導の任に當る。亦昭和八年三月二十九日大桑名市建設の桑名町益生村併合最初第一歩たる町會議員選舉開票の結果二一五票と云ふ最高點を獲得して見事當選せられた方、尙其他縣土木建築請負業組合理事同支部長を勤め、令閨が貸座敷『樹屋』を經營されてゐる。伊藤氏は温厚謙讓熱心で且飽迄も人格的に解決を希望する方、常に社會公共事業の爲つくされてゐられ硬骨漢にして涙多き快男子で其の將來を有望視されてゐるのみならず現在の沈滞期にある桑廓の更新に關しては日夜寢食を忘却して盡力し桑名の名所櫻堤を利用して誘客策に腐心してゐられるが同氏は桑名四業聯合組合長の要職にも就いて前途は益々洋々たるもので其人格は一般から崇敬されてゐる

向上發展修養に心掛け

大成を期す可く努力の人

伊藤 榮 氏

東京市杉並區高日寺

氏は警視廳保安部に勤務してゐられ、中央大學法科に學び優等の成績を以て卒業され大學在學中より警視廳に勤務され交通事故の一番多い複雑な統計事務の多い交通課に遺漏もなく處理し其の精通してゐる手腕大いに見るべきものあり、氏の敏腕たるは夙に廳内に知られ將來重要な地位を占る人として敬意を表せられてゐるが氏は一心不亂に向上發展修養に心掛け將來の大成を期してゐられるから廳内に其の人ありと呼はれるゝも差して遠遠でもなからうとの事だ。氏の性質は温順にしてよく人と和し争はない、情の深い方で日常生活は圓滿に送られてゐる。

桑名郡史蹟研究會長

水谷長之助氏

三重縣桑名江戸町

年齢不惑を超ゆること、手腕人格共に圓熟し、縣下貸座敷業界に座をなす水谷長之助氏は明治廿一年出生にして貸座敷山水を經營し傍ら自治に力を用ひ非凡の材幹を發揮し種々の要職に在り他面亦風雅の道に蘊蓄あり、幼にして天下の老儒秋山白賁堂先生の門に入り漢詩和歌をよくする外郷土史の研究に興を持ち自ら數種の史書を著してゐる。桑名郡史蹟研究會の牛耳をとつてゐる外に生花松月堂古流第四世靜雲轉を繼いで先に長くも今上陛下東宮殿下にました頃伊勢行啓に際して嚴父雪洞齋師と共に生花献上の光榮に浴した、現に同流最高職日本總會現職にありて界斯にその名高し。

氏は名古屋市役所に奉職し大正十二年家督を繼ぎ業に従ひ傍ら自治に盡瘁し才能を表され桑名貸座敷組合取締長、縣貸座敷聯合組長、全國貸座敷組合聯合會支部長、桑名町祭車長等を兼任してゐる。氏は常に亦生花を自らの趣味とされてゐる。

稀れに見る

人格高潔至誠一貫の士

長谷川正氏

員辨郡大泉原村

氏は愛知縣名古屋市に生れ大正八年六月員辨郡書記拜命學務係を命せられ大正十五年六月郡役所廢止と共に其の職を辭し爾來郡團體事務所勤務、昭和四年三月員辨郡町村長一同より推薦され團體主事として今日に至る。聞く處によれば氏は幕末尾張藩の重職として朝暮の間に君國に盡し贈位の聖恩を拜したる名門の嫡孫にして氏の謙讓温厚なる事、秘して語るを避けられつゝあり、氏に三男あり長子は目下縣立桑中四學年にして在學中にて優秀の成績をしめ將來を囑望せられてゐる。氏亦子弟の教育に意をもちひ祖考の遺志を紹介しむべく提撕教導に努められつゝあり、氏の一家相傳の珍重すべき書畫刀劍等を藏し過日桑中十周年紀念式に其の一部たる大久保利通公の書簡を同校在學中の令息を介して貸與出陳せられ識者をして多大の感銘を與へ家門偲ばしむるものありたり、氏は稀に見る人格高潔至誠一貫の士にして其の附記を盡すべく郡内の自治産業教化凡ゆる方面に全力を傾倒せられつゝあり、誠に感服に堪へざる處なり。

名望家としての語

近郷に著名である
眼科専門醫師
植物蒐集家

從七位
勳五等

淺井平一郎氏

桑名郡在良村

氏は明治十三年五月一日在良村大字額田に生る。氏は眼科専門植物蒐集家で三重縣下は申すに及ばず他縣に其名は顯著である。三重博物會と謂へば淺井平一郎氏を思ひ淺井氏を想ふ時博物會を聯想する程氏の名は近郷に著名である亦眼科専門醫として大病院を經營し刀圭界に知られ其の人格と卓越せる手腕によりて殷賑を極む、氏多忙の傍ら植物の採集及栽培に限りなき造詣を有し餘儀また縣下植物界の一權威者として重きをなしてゐる。氏幼少の頃三重郡大矢知村川北丹波修治の許にありて師の感化を受け夙に植物を愛し珍草を蒐むるを娛みとし附近の山野を漁りて諸種の草花を得て、これを捺葉として町寧に處理し師の主宰せる菅百交友社博物會に出品してはその目録表を受くるを無上の樂みとせり。その後氏は明治三十七八年の役に従ひ、さらに又日獨戰爭の際にも征衣を纏ひ砲煙下の人とし戦功を立つ、その寸暇を措いて尙植物の採草に餘念なく後隱岐に居を移して裏日本に於ける幾多の珍草を集め更に再び北勢の地に戻り有名なる氏の羊齒類採集は此の時に芽生へり。その後名古屋市の梅村甚太郎、右左見直八、

鈴木釘次郎氏等の三先輩の指導を得て今日に至る、その間各學校諸団体に植物標本の寄贈多く、知事よりその奇特なる行ひを表彰する外各方面より感謝狀の贈呈尠からず。氏亦身を醫界に立てんと欲し勉學怠りなく、明治三十七年試験合格直に征途に上り從七位勳五等陸軍二等軍醫の身にあり。現居村在郷軍人分會長の榮職にあり尙昭和五年六月創立された三重博物會は事務所を淺井病院内に設け、植物動物、礦物に關する事項研究の有志を會員として組織され毎年春秋二回に博物標本陳列會を開催し昨年よりは常設的となし隨意觀覽せしむ、出品物は非常に多く就中藥草に重きを置きて其轉植乾燥標本生實の瓶詰等を陳列し同好者の參觀に供する外講話會、研究發表會、座談會を随時開催して斯界に貢獻する處頗る多くその活動は業界に注目されてゐる、主宰者淺井平一郎氏は篤學者として名聲全國に喧傳する尙在良村大字額田は從前迄齒科醫が無く困却してゐたか今回淺井氏の令嬢隱岐子女史が研究十年の志しを達し同村に齒科醫院を開く事になつたので村民は大變悦んでゐる。

名望家語

町會議員
桑名金庫組合長理事
正七位 勳六等 安達逸次郎氏
桑名町

温厚圓滿の人格を以て町民の信望と景仰を受けつゝある安達逸次郎氏は慶應二年八月八日の出生明治二十三年陸軍教導團に入り成績優秀、漸次昇進して部内に信任厚し、同三十二年歩兵大尉を以て退職した。その後神宮皇學館講師となり一時教鞭を執つた、また同四十年以來約五年神宮衛士長をも勤めた。
大正十一年官界を辭して故山に歸り同十四年信用組合組織の必要を痛感し、自ら率先して桑名金庫を創立し推されて組合長理事となり、爾來その發展に努めて今日に及んでゐる。その他町會議員、株式會社日の出市場取締役を兼任し、温厚の人格と老練の手腕とを以て能く事を運び、好評噴々たるものがある、現に正七位勳六等を有す。

名望家語

藥局界の覇者
正八位勳六等
千葉數太郎氏
桑名町宮通り

千葉數太郎氏は當地方に於て有名な店舗をかまへ藥局を開いていられた。曾て陸軍に在り退役陸軍三等藥劑官にして正八位勳六等に任せられていられた。明治十七年三重縣甲種醫學校に入學、十九年東京獨逸全修學校入學後獨逸協會へ轉學二十年歩兵第一聯隊に入營二十四年下谷東京藥學校に入學等の經歷を有す、趣味は俳諧、謠曲、茶道、書畫等の風流を好み、東本願寺派に屬す。
俳諧は美濃水音分社補佐といふ要職にあり、茶は千家流にして目下は當地愛宕山下に趣味に適合した別莊を建て専ら茶の指導に餘生を送つて居られる。

伊勢出身の
權威ある株式店
刊 商店主 奥田晴一氏

名古屋市中區南榮町一丁目

刊 商店と云へば伊勢では相當知られた暖簾で津米穀取引所創立以來の取引員として信用絶大の仲買人であつた。

氏は其三男に生れ暫く市場代理人として斯業の研究を続けられしが前途株式方面の發達伸展を豫期せられ奥田證券合名會社を發起し其社長として地方株式の開拓に努力する所少からず、由來伊勢と中京とは密接なる商取引關係あるを豫知し策源地を名古屋に設置するの得策なるを認め會社を辭し商工大臣の認可を得て名古屋株式取引員となり今日に至れり。其間廿五年我財界は古今未曾有の迂餘曲折あり、歐洲戰亂、關東大震災、モラトリアム、金輸出解禁、日支事變、金輸出禁止、國際聯盟、等々皆一として我國政治外交に重大なる關係を有せざるはなく従つて株界の波亂

も又前代未聞の事のみ多かりき。

氏の卓越せる手腕と人格は能く此の狂瀾怒濤を巧に游泳し業務怠々進展今や西に令兄奥田喜一郎氏大阪株式取引員開業と共に其誘導宜しきを得將來東京、ニューヨークなどにも發展せらるゝ意氣込にて旭日昇天縣下稀に見る株式業者として定評あり、縣下新たに株式開店の業者は皆氏の門を叩き其指導を受くるを例とせり。

氏も又縣下の爲後進を補導養育して其樂みとせらるゝを見ても氏の徳望の如何に厚きかを窺ふに足る、一度氏の温情に接するや永く顧客として取引せらるゝ者多きも又氏の人格の然らしむる處ならん。

誠意親切確實主義
をモットーとして成功された
名古屋市中區大池町一丁目
大橋弘吉氏

自宅 中區大池町一丁目

努力と勤勉とを以てその全生活を一貫し獨立を以て今の地位と名聲を獲得したのが大橋弘吉氏である。氏は桑名町吉津屋町大橋専三郎氏の長男明治十九年丙戌の生れと云ふから年齢不惑を越ゆる働き盛りである、家は代々骨董屋さんで知られた家柄である。氏が小學校を卒へた頃不幸にも父は不歸の客となられたので大橋氏は早くから父親の慈愛から離れた譯である。それから大橋氏は文字通りの辛酸と戦つて遂に志を立て二十一才にして名古屋市中區大池町に見習として住込んだのが氏の今を築く第一歩であつたのである。

氏は誠意、親切、確實とをモットーとした株式会社で成功せられた方いつも極めて親切で殊に確實主義の方無駄に贅言を費さないが一流の鑑識と明敏な機智とを以て誠意を貫かうとするところに家運繁榮の礎が積まれた所以である。現に一日の商四千株一ヶ月十二三萬の商成績を示し當代名株取引員中實に十指を屈する一人である。更に同氏は今度名古屋市中區大池町に約二百餘坪の住宅を買入れ其の數寄を凝し設計は見る人をして驚歎せしめ特にサンルームの設備等あり四季を通じ眺望好く全く一小公園の感を抱しめる。

斯界に健闘してゐられる
サニタリ商會代表者
黒宮五朗氏

桑名町

黒宮建築事務所及サニタリ商會代表者、株式會社旭ビル監査役、信用組合桑名金庫監事、株式會社日の出市場監査役黒宮五朗氏は桑名郡木曾岬村の出身にして明治二十四年一月亥郎氏の五男に生る、後彦太郎氏の家に入る、彦太郎氏は町會議員として功績の士であつた。

氏は富田中學校卒業後東都に負笈し、早稻田大學理工科に建築學を修め大正三年所程の學を卒へた、その後朝鮮總督府に奉職し在勤六年轉じて大阪明正社に入り當時大毎關門支局の設計監督其他あり、大正十二年春獨立して大阪の中心地に建築事務所を經營し江商ビル(工費百二十萬圓)の主任監督中大正十五年岳父の逝去に依り故郷に歸り家督を相續し新に桑名町新町及四日市に事務所を設け依然斯界に健闘してゐられる、尙

【34】

昭和二年サニタリ商會を起し、四日市桑名の水道工事を請負つて隆盛を
持續してゐられるが北勢は勿論縣下の主なる奉安殿は同氏の設計監督
に依つて完成してゐる程で現在名古屋市に八萬圓餘の工費を投じた建
築物を設計監督をなして目下事業の遂行に努力せられてゐる模様であ
るが斯くの如く同氏は各方面に亘つて建築界のオーソリテイとして知
られ主なる建築物は同氏の手を経ぬものはないと云はれてゐる。
同氏は亦趣味も多く特に中學時代は野球に興味を持つてゐたが大學時
代から寫眞に轉換したが同氏の最も得意とする處は幼少時代から唄に
趣味を持ち長唄などは玄人も及ばぬ程の技量を持つてゐられると。

桑名郡多度村々長
從七位 陸軍歩兵中尉

西田源藏氏

【35】

産業並に自治村政の功勞者西田源藏氏は明治二十九年一月十四日先代
源藏氏長男として生れ、石陵氏を祖父に持つた。愛知縣立第一中學校を卒
業後一年志願兵として歩兵第三十三聯隊に入營し、大正十年少尉に任官
昭和四年多度村々長に推され縣道の改修、多度橋の改築、昭和八年一月多
度小學校の改築其の他の治績を收め、現に村長農會長、郡聯合分會副會長
抽井耕地整理組合長、蛇江耕地整理組合長、三重縣耕地協會評議員等を兼
任し名望噴々たるものがある。因に當家は庄屋を勤めた名家で始祖以來
十四代に當り祖父は戸長、村長其の他を勤め實父は郡會議員、村長其の他
を勤めて社會に貢献された。當主には二男二女があり團樂春光を浴びた
る家庭を營まれてゐられる。

名望家語を

國幣大社
多度神社
宮司 後藤周治郎氏

桑名郡多度村

多度神社は天照大神の第三皇子天津彦根命を祀る、別宮一目連神社は天目一箇命を祀る天目一箇命は天津彦根命の御子に座す、往昔多度大神宮と稱す。大正四年十一月十日國幣大社に列せらる。宮司後藤周治郎師は静岡縣富士郡富丘村の人明治九年十二月四日生る、長じて國學院大學に學び三十九年業を卒へ四十四年國幣中社寒川神社宮司を仰付られ其後官幣小社竈門神社宮司、國幣中社西寒多神社宮司、官幣大社竈山神社宮司を歴任し昭和五年三月當國幣大社多度神社宮司となられ榮轉後敬神思想涵養の爲多度講をつくられ現に講員は五千人の多きに達してゐる。師は現に従五位たり資性温雅學識深遠にして人格高し。

名望家語を

桑名郡多度村收入役
帝國在郷軍人會多度村分會長
正八位 陸軍騎兵少尉 石川清氏

氏は稀れに見る人格高潔至誠一貫の士にして村民の信望と景仰を受けつゝある。
石川清氏は明治卅四年五月廿五日の出生にして愛知縣安城農林學校の出身であり大正九年一年志願兵として名古屋騎兵第三聯隊に入隊され大正十三年騎兵少尉に任官、尙氏は國立一宮蠶業試驗場及愛知縣舉母町立農業公民學校教諭として教育に従事され後家事都合上退職され現多度村在郷軍人分會長、收入役として手腕を揮つてゐられ尙多度村、古濱村の農學校出身で農民更生會をつくられ農村自力更生に努力せられてゐる。氏は資性温篤にし當村大衆より偉大なる尊敬と信頼を受けてゐられる。

名望家語

三重縣桑名郡伊曾島村長
北勢倉庫株式會社々長
松平殖産會社々長

松平家晃氏

桑名町

氏は現伊曾島村長、北勢倉庫株式會社々長、松平殖産株式會社々長、株式會社丸ビル相談役、北勢鐵道株式會社取締役、北勢繭絲會社取締役、境殖産合名會社々員、伊曾島農會長、村會議員、信用組合理事松平家晃氏は慶應三年三月十五日の出生、新左衛門氏の男、松平忠頼の三男忠勝の裔にして氏はその第十三世なり。王政維新後桑名町より當伊曾島村に歸農し桑名町大字住吉町、同相生町の地を創設し今日にあらしめた、また木曾川改修工事の大業を完成せしめ西桑名町大福田寺の本堂太子堂鐘樓、桑名町大谷派別院聚星閣第二小學校奉安殿等を建設する等町朽の事業をつくしてゐる。その他徴兵參事會員、縣會議員、郡會議員、所得稅調查員等の公職を歴任し地方文化産業の寄與頗る著大なるものあり、信望隆々として高い資財甚だ多く多額納稅者の一に數へらる。資性温雅、人物雄大、學識高邁なり、茶道、生花の蘊蓄深い。子爵梅溪通虎氏は氏の次男なり、長女淳子嬢は男爵相樂公愛氏夫人なり。

名望家語

三重縣桑名町

本統寺住職

大僧正 慧日院 嚴量 師

別格別院本統寺は教如上人の開創し給へる所、今に三百有餘年勢、尾、濃の三國に跨りて教化の中心となり、我等の祖先が常に樂んで參集聽法し先徳古徳古哲が常に開導說法の靈なり。當地の長者山田彦兵衛氏本堂屋根を改造し現八棟式とす、住職慧日院嚴量師諱を勝信といひ、嚴如上人の第四男童名を信廣と稱す、十歳にして得度し、當寺に住職となられ、明治卅四年五月米國に留學され更に歐洲諸國を巡遊され宗教教育を研究し三十六年三月歸朝、直に僧正に補せられ次で寺務總長に任せられ卅九年三月權大僧正に補せらる、四十年宗祖大師六百五十回忌には御待受準備委員長となり遠忌準備局總理を兼ね四十一年大僧正に補せられる、四十三年日韓併合に就ては朝鮮特派使を命ぜらる、その他諸種の役務を奉じ又法主代理として各地巡化師團等の慰問或は追弔會參向及諸別院法要參勤の類枚舉に遑非ず、師は心事常に光風霽月、唯是れ衆生の濟度を念とし宗門の繁榮を意とされて居る。

名望家としての語

桑名町収入役

松田 鍊太郎氏

桑名町一色町

地元財政經濟に通曉し事務に練達せる典型的理想の公吏を松田鍊太郎氏とす。

氏は故新一郎氏の長男にして明治十五年五月二十二日生る、家は元桑名藩士にして祖父は御勘定頭を勤め其の財政的手腕を知られた。

氏は初め第二十二銀行に入り行務を執る事三年金融業を究めた、明治三十四年轉じて桑名町役場に入り會計係書記となる。爾來多年一日の如く精勵して町財政の爲に奮闘努力しその功頗る多い、大正七年選ばれて収入役となり今日に及ぶ。勤績既に十年に及び益々町民の信望を加へつゝあり以て其の非凡の財務的手腕と公正なる態度とを知る事が出来る、傍ら桑名町金庫監事を兼任してゐるが寔に適材を適所に得たるもの、町民の爲に氏を得たる事を喜ぶべきである。

亦氏は敬神に關して一見識を有し嘗て皇道大本桑名支部長として敬神的方面に盡瘁せられつゝあり。

名望家としての語

斯界に唱られた

葛山 照吉氏

葛山照吉氏は桑名町太一九に住居せられ、土木請負工事監督等を職業としてゐられるが、其識見の卓越技術の優秀なる事は北勢地方は勿論縣下周知の事實であるが、氏は早稻田大學の業を卒へ小學校の教師を振出しに活躍され鐵道方面の工事に久しく従事せられてゐたが、其後思想事業共に堅固不拔の努力が報ひられて現在の地位と榮譽とを勝ち得られた人で現在では桑名町會議員二期商工會役員等を務められ、其何れも若手新進として識見の卓越と正義の辯論は純理整然としてゐるので町會一方の主として町會の樞要なる地位を占めてゐられる、併して氏は小柄とは云へ全身血と熱に依つて満たされ生氣潑瀾として物凄い迄の様子であるが性質温厚の君子である。

識見人格高き

石原徳一氏

桑名町宮通り

石原徳一氏は桑名町宮通りに老舗として古くから知られてゐる。玩具商が本業であるが本業よりも桑名町會議員及町商工會の幹部として北勢は勿論縣下に有名な方である。

同氏は其他にも信用組合桑名金庫の役員、大字の總代等の名譽職を務めてゐられて桑名町の中堅人物として着々と堅實な地位を占められてゐる、一見剛直な様に見られるが性質は溫柔で意志強固の上理性に富まれた人で一度面接すれば自然と其識見と人格に引付けられて行く人で社交的にも才能のひらめきを見せ過般の益生村との合併問題にも其稀才を縦横に活躍させて偉大なる功勞者として町民から與望を得てゐられる。其活躍家の反面に興味と云ふよりは人格向上精神修養の一助として松尾流の家元宗匠を招いて茶の湯を熱心に稽古されてゐる。

趣味としては寫真園基まで至つて高尚で桑名町の中堅人物とし町民から將來を期待されてゐると共に信頼を得てゐられる人格者である。

銘菓製造所

國華堂と

片山政治郎氏

縣下に誇る菓子商四日市市國華堂菓子製造舗は斯界に最も古き歴史と信用を持ち名菓と云へば國華堂國華堂と云へば名菓を聯想させる位迄同舗の菓子は何人にも良く知られてゐる。現當主片山政治郎氏は此の業界の最も深き研究家にして將又手腕家にして性極めて温順に富み社交に丈肌ざわり良き人である氏は又良く子弟を大切にして秘傳を授けるため子弟も又良く主人に勤め其業務に精勵しつゝあり、同店に勤め修業した人々は今や廿六、七名の多きに達して居りいづれも立派な店舗を構へ其繁昌をなしつゝあるは他店に一寸見られぬ處である。其内でも桑名の花の舎菓子舗は誰もが知る老舗であるが此の店も當店の暖簾内にありし事にて良く主人大事と勤めた人である、宜なる哉此等の人によりて昭和二年國華會を組織し毎年春秋二季に四日市、桑名に於て和氣あい／＼たる内に其有意義なる一日を先祖の墓參の後菓子に對する研究をし以て業界の發展に盡力してゐるので人情紙より薄き今日かゝる會合は實に羨ましい次第である。尙本會は本年六月頃京都に鎮座ます菓祖中島神社に參詣なし其御神護の厚きをも御禮參りするとの事である。かくして今や國華堂の隆盛を見しは一つに良品を造るは勿論であるが斯うした隠れたる幾多の美德があつて大いに力がある。

てね尋を人の技

銘酒三崎鶴醸造元

桑原利作氏

三重縣桑名片町

氏は各種町の役員を務め大正八年頃町營淨水道の一部を私財約一萬餘圓を以て修繕寄附した事があり尠からず町民一般の利便を圖つてゐる土地埋立組合の役員、旭ビル建設の一方の旗頭として又桑員酒造組合の幹事であり本業の銘酒三崎鶴の醸造工場は日一日と隆昌である。仕事好きで而も振らず驕らず孜孜營々として一躍巨萬の富を積んだ人は桑原利作氏である。その社交の上手なのと機に乗じ微を穿つこと先天的と云ふはうか寔に他の追従し難い長所を把持してゐる。親切な事何處かに商人肌な處がありしかし機敏で計畫的な處は何處かに仕事師肌な天分があふれてゐる。趣味としては和歌をよむことを樂みとしてゐられる。

る語を家望名

從七位勳六等
陸軍歩兵中尉

桑原新吉氏

桑名町魚之棚

帶新さんと云へば誰もが桑名町の代表的吳服商桑原新吉氏を連想する程に有名な人で吳服商が軒を並べてゐる桑名町の目貫通り魚の棚に意匠と廣告を巧に考圖した古舗の御主人であつて嚴父新七氏は桑名町の實業家を網羅した『清和會』の重鎮である。當主の新吉氏は四日市商業學校を卒業して大正三年に守山三三聯隊に一年志願として入隊、大正七年に少尉に任官され頭腦の明晰軍務に忠勤の爲十三年中尉に累進し西伯利亞出征で從七位勳六等に叙せられ現在では桑名在郷軍人分會副會長と云ふ商賣人とはかけ離れた肩書を持つてゐられる方である。同氏は性質温和優美にして何事にも熱心に正直に務められるので帶新の名聲と共に少壯實業家として桑名町になくはならぬ人である。其信用が遂に桑名商工会の役員も務められてゐる。

名望家語る

信用組合長
勳八等

出口久明氏

員辨郡大泉村

出口家は村内に於ける舊家で實に十四代を累ね、代々庄屋等を勤めて一村の發展に貢献するところがあつた、先代宗九郎氏また村治の功勞者と讃へられた人、氏は其長男慶應三年一月十日の出生、幼少時は私塾に學び次で東上して學修し歸郷後は村役場に入り書記として勤績し明治卅八年より大正八年迄四期間村長に就任、内治の功に依つて勳八等を下賜された。大正八年縣會議員に當選し縣政に參與し其他村内の公職に推されて村治並に産業方面等に功績を稱せられてゐる。
現在は郡農會議員、學務委員、大泉原信用購買利用組合長等を兼ねてそれ盡瘁してゐる。趣味は政治にて當地方政界を牛耳つてゐる。尙家は電燈機具工事請負業を營んでゐられ隆盛を極めてゐられる。

名望家語る

名聲高き
醫師

嵯峨平六氏

桑名町宮通り

氏は名聲高き醫師である。
氏が社交に廣きは曾つて町會議員に選ばれ亦各種町の役員、醫師會の役員によりても明かなり常に盆栽と園藝とを娛みとし郡内の信望を得益々隆昌を呈してゐられる。
氏は山口縣吉敷郡山口町より轉籍せる人にして九州男子の概あり、明治三年三月二日生れときく宗教は眞宗西本願寺派に屬せらる。

名望家語る

郡町村長會長
大長村長
正七位 門脇欽吾氏

員辨郡大長村

門脇家は當地方に著聞されたる素封家で舊幕時代には庄屋を勤めた名門である、氏は慶應二年一月二十八日員辨郡石樽村(本籍梅戸井村梅戸)に孤々の聲を揚げた、實父神谷兵藏氏の四男である。日清戦争に出征し祖國の爲に盡した。又氏は早くより教育方面に身を投じて中里小學校、大長小學校の校長を勤め更に榮轉して愛知縣津島中學校教諭となり、福岡工業學校、京都福知山中學校に教鞭を執り、後本縣一志實業女學校々長を拜命轉じて多氣實業女學校長を勤め大正十四年依願免官され、其間教職に携はる事三十餘年、功に依りて正七位に叙せられた。
大正十四年九月大長村々長に迎へられ爾來農會長、町村長會長に兼任中である。

法盛寺住職

福井瑞華師

桑名町

名望家語る

眞宗本願寺派の別格にして嘉禎元年七月三河國矢矧柳堂阿彌陀寺を建立、應仁二年桑名西町に移し慶長四年現地に移し寺號を法盛寺と改む、其後萬治年間本願寺准如上人男、理光院光恕法師越前福井本淨寺より轉住中興す、爾後歷代本山司金勤番とす、文化八年伊勢國總觸頭となる、寺中七ヶ寺下寺五十七ヶ寺あり明治八年七月本願寺桑名別院とし、同十五年別格寺に列せらる北勢一圓を崇敬地域とす、本堂十八間四方、北勢隨一の伽藍なり。住職福井瑞華師は明治二十年九月十二日の出生にして當地の出身である、西本願寺の連枝なり、夙に教理を研鑽して奥儀を極め智德備はる、嘗て本願寺大谷光瑞師に隨ひ支那各地を巡遊し、後本願寺の命を受けて英京倫敦に遊學し、更に歐洲各國を巡り、宗教及社會事業を視察研究せられ歸山、後本願寺法務部長及び侍眞守眞長華等歷任し其間法主代理として各別院、師團、鐵道局等の法要に參向する事數ふべからず。
大正十四年現住職となり爾來自坊法務を掌り傍財團法人九華惠風園長を兼ねてゐられる。

石真流宗家

谷古正賢氏

桑名郡伊曾島村

盆石石真流宗家谷古正賢氏は明治十六年八月、谷古作左衛門氏の男として生る、家は同郡桑名町の出身にして累代商業を經營した、氏は初等教育終了後、津中學に學び所程の業を卒ゆ、夙に書を能くし永阪石埭師先生に師事して研鑽する事十有餘年の永きに亘り、遂にその奥儀を極め独自の境地を開拓し、書風頗る雄揮なると共に風格あり自らその爲人を反映す其他、詩文、篆刻、茶道、文人書等夫々その蘊蓄なるところ深く、自ら蘊奥の境地に達してゐる、幼時細川流を修め、其の蘊奥を極むるや諸流を研究し、盆石、盆書、鉢山水の三流を究む、特に石真流石真齋宗匠に師事して二十有餘年、出藍の譽高く斯界に令名あり、後選ばれて石真流は七世を繼ぎ今に至る號を石香と稱し、又三州舩人、蘇州山人、竹仙堂主ともいふ。

快活の士にして
事務に熱心な

内田所左衛門氏

員辨郡七和村

氏は現七和村々長であり自治公共の爲に盡さる處大にして事務に熱心能く村治勸業に精進した快活の士である、かつては私立星川珠算學校を開設せられ校主となり教鞭の人となり育英の爲貢獻せられた人であるが同氏は七和村の發展に付いていたく心痛し各方面に關し同村の發展策に腐心し其第一歩として同村青年團の思想涵養、農事の發達、耕地の改良擴張等を村民に率先して自己が立ち働いてゐるので村民から非常に畏敬されてゐる同氏は事業家である反面に於て社交家として知られ内田氏に面接すれば永久に忘れられない程に好印象を與へる人で常に满面微笑を漂つて語られる人であるそれが爲同氏は村内は勿論縣下に於て人格識見手腕共に高潔な人として信望を集めて其將來の活動を期待されてゐる。

名望家の語

自治上の中心人物として
待望を寄せられてゐる

伊藤 幸次郎氏

員辨郡神田村

氏は本村村長として其愛郷精神の篤きこと何人も畏敬してゐる所である。氏は明治三年素封家を以て知られてゐる伊藤家に生れられ幼少より俊才を囑望されてゐたのである。大正八年農事功勞者として縣より其篤行を表彰され昭和三年には總代役三十年餘勤績せるを以て表彰され明治三十年郡會議員に出て爾來數期在任その間明治三十八年七和村長に選ばれ、日露戦争の功に依り勳八等白色桐葉章下賜さる、其の外自治産業各般上の功多く現在神田村長の外北勢鐵道取締役三重相互無盡取締役等各種會社の重役社長の重職に就任せられてゐる。

名望家の語

郡農會長

和波 久衛氏

員辨郡笠田村

郡公界出色の人材、和波久衛氏は傳統の名譽と巨萬の富と新しい時代の知識とを有してゐる前途頗る多望の新進である。明治三十八年五月九日の出生にして久司氏の長男である、嚴父の和波鑛太郎氏は農工銀行重役であり又縣會議員として雄飛し地方に其の名の高い傑物である。

氏は小中學とも優秀の成績で卒へ早稻田大學に入り英文科を卒業後故山に歸り、郷土開發に其の才その學を用ひてゐられ、先づ修養園を組織し、勤勞を勧め、後更に農家組合と合同して理想的な産業組合を組織し以て機能を遺憾なく活用する事になり農村の行詰を打開せんとしてゐられ、其他郡農會長、和波家小作組合長を兼ねてゐられ理想に奔らず淺薄に墮せず理論と實際との調和をはかり以て現實の効果を收めんとしてゐる。

また北勢鐵道會社取締役を勤め地方交通の利便を開拓しつゝあり。

名望家の語る

醫術の研鑽深き

廣田善太郎氏

員辨郡七和村

仁醫廣田善太郎氏は醫界新進の人物である。患者の診療に従事する傍醫
學徒として熱心なる研鑽を続けらると言ふ。

過般執行せられた同村々會議員には十二名の定員中一位を獲得せられ
當選、村醫校醫であり名望家である。

明治十六年十一月三日生れで愛知縣立醫學專門學校(愛知醫大の出身)に
て明治四十二年四月現所に開業された卓越した手腕と非凡なる學識と
は世評の語る處で十目の視る處十指の指を示す處嚴なるものがある。
資性は温厚にして厚朴である。趣味は寫眞に熱心である。

名望家の語る

三重縣消防協會理事 三重縣消防協會評議員
三重縣自動車協會常任理事 三重縣消防協會桑名副支部長
名古屋鐵道局管内自動車協會理事 桑名消防組頭
桑名町會議員

大橋徳治郎氏

氏は三重縣消防協會の役員を初め名古屋鐵道局自動車協會理事、桑名町會議員桑名消防組頭の役員とし
て働いて來られ氏は慶應三年十二月の出生である。資性英敏にして公共心に富み夙に自治に盡瘁して公
平無私大衆の利益に奉仕して功勞尠からず信望を高めた方で、明治二十九年區會議員に選ばれ續いて町
會議員に選出せられ爾來本日に至る迄三十有餘年間連期勤続してゐられた、その間郡會議員、郡參事會
員を三十一年より郡制廢止に至る迄連期當選した第一小學校後援會長を勤め大正二年消防組頭となる
銳意消防事業の發達に努め機關を整理し諸施設を完全し縣下第一の模範的消防組となし、その功績大、
大日本消防協會より特に表彰せられた、現在尙その任にあるなり縣消防協會郡副支部長、縣消防協會評
議員を兼ね斯界にその名高し、他面氏は大正十一年來驛構内タクシーを經營し名古屋鐵道局管内自動車
協會理事、縣自動車協會常任理事の任にあり當地隨一の名望家にして一般より畏敬せられてゐる。

桑名町會議員
桑名商工會幹事

星野彌兵衛氏

桑名町赤須賀

桑名町で魚圓と云へば誰知らぬ人の無い程それ程町に於ても一流の料理屋であるが其の主人が星野彌兵衛氏であつて同氏の先代は赤須賀開拓の恩人として區民から欽仰されてゐた人である。其の血を受け繼いでゐられる彌兵衛氏は今や町會議員の花形として大桑名建設の第一歩にある前途遠遠なる町會議場にあつて年は若いが努力と熱があり親切をモットーとしていつも公共的な觀念を以て活躍をなしてゐられる。同氏に一度面接するや温厚篤實な言行に誰しもが信頼と愛慕の情を起していつしか其の人格に力強いものを感じる、其の他桑名町商工會幹事の名譽職あり若年の活動家として將來を囑されてゐる外赤須賀魚問屋仲買組合長として組合に盡力されてゐる。

蘊蓄識見高き

吉田銳男氏

桑名町内堀

桑名町内堀の吉田銳男氏は過去の大半は南洋に生計を立てゝゐられた方で桑名町の一異彩として知られた方で明治二十年頃上京し東洋英和學校に入學同二十三年卒業した方で會話は同校中でも第一者として教師からも驚異の瞳で觀られてゐた程で日清、日露の兩役頃は朝鮮、滿洲に貿易商を營んでゐたが活動力に富んだ同氏は四十三年頃から南洋に渡り、英人經營の太平洋燐礦會社に約十三年務めてゐられたが其間得意とする會話術を自由自在に發揮してジャバン吉田と英人間の中に崇敬される程になり同社にはなくてならぬ人になつたが其間一流外人仲間を得た環境に依つて天稟の性質が磨かれて英人紳士の様な謹嚴も加味されて威風堂々たる有様で大正八年故郷に錦を飾つて歸られたが、現在桑名瓦斯株式會社常務取締役として其の蘊蓄せる識見と英國仕込みの手腕とに依つて瓦斯會社の社運を益々擴張しつゝある有様で上下から信頼と畏敬を拂はれてゐる。尙同氏は大正十四年町會議員となり當時の町會の一異彩として有名な人であつたか現在では温厚篤實の人として桑名町民から敬はれてゐる。

名望家語

桑名町在郷軍人聯合分會長
町會議員
陸軍歩兵中尉
從七位勳六等

桑名清水町

水野茂助氏

意氣激測としてゐながら温量沈着の士として桑名郡材木界の新進實業家として各方面から崇敬されてゐる桑名町清水町水野茂助氏は、材木界の重鎮のみならず町會にても沈黙行決斷心に富み町會の樞要なる地位と一つの勢力を持つてゐられる方で政治的手腕にも逸材を示されて其の抱負識見の深遠なる事は衆人の知る處である、同氏は四日市商業を卒業後大正三年一年志願兵として守山三三聯隊に入隊大正七年歩兵少尉に任官昇進してシベリヤ出征其の勳功により昇進して現在中尉に昇進し桑名町在郷軍人聯合分會長を務められてゐる外桑名材木商組合長、桑名商工會の役員、三重相互無盡株式會社取締役、北勢運送株式會社專務取締役等幾多の名譽職を持たれ材木商としては桑名屈指の大商店で縣下に其の名を知られてゐる方である。同氏は軍人らしい氣魄に生きる人で淡泊である併し物事に對しては熱心と眞面目と誠意で處理される方で現在では桑名町の中堅人物として將來を期待されてゐると共に同町にはなくてはならない人として各方面から敬慕されて其の活躍に對して大きな望みをかけられてゐる有爲の士であり、一面風流人であり各方面に興味を持ち中でも有名な桑名石採り祭は大すきである。

手腕人格高き

仁醫 平岡 文次 氏

桑名町

名望家語

氏は仁醫にして町會議員たりし事あり以て氏が信望厚きを知るべきなり氏常に公衆衛生に志すこと深く町治上常に之が爲に考心すと云へり快活にして書畫に明あり家に珍幅を藏すと云ふ氏禪宗を信じて禪味の深きものあり書畫も亦之に従ふと云へり。氏は岐阜縣大垣市切石高橋善彌氏の令弟にして平岡家を繼ぐや居を桑名町本町に構へ醫業に當つてより患者が駆け込めば深夜も厭はず何れの場所でも往診に行く程職務に忠實でこれが爲各方面から敬愛されてゐる。同氏は手腕技量年輩から云つても桑名町屈指の人であるが若さに於ては少壯氣白の感を抱かしめる程の元氣である。尙同氏の書畫鑑定眼は素人の境を出してゐるので縣下からも多數の同好の士が訪れて一同趣味の話に耽られる英雄閑日月の情操もある。

名家望を語る

頗る多趣味な

宮 島 武 夫 氏

桑名宮島薬局御主人

西桑名町八間通りに新装を粧した薬局の店舗に生氣潑瀾として毎日業務に精勵してゐられる宮島武夫氏は熊本縣八代郡八代町長町出身で、大阪府立市岡中學校及東京明治藥學專門學校卒業の新進藥學士で、學校時代には諸般に亘つて廣い趣味を持つてゐられた方で特にフットボール、野球、音樂等の造詣深くシネマ（西洋物）等も中々の通である。

卒業後甲府市桐生町宮澤康濟堂藥局に勤務されてゐたが其後愛知縣衛生課試驗室防疫及愛知縣警察協會診療所病院に勤務、其の手腕を認められてゐたが、今回西桑名町に藥局を開設の爲退職されたもので愛知縣當局では宮島氏の退職を大變惜み再三留任を勧められたものである。

宮島氏は四日市でも有名な森太吉氏と親戚關係にあり、其手腕と識見は各方面から非常な期待を以て迎へられてゐるが、桑名町に轉居せられて日なほ淺きに拘らず連日門前市をなすが如き千客萬來の有様である。

名家望を語る

二井毛織工場主
染物毛織物組合副會長
村 農 會 長

二 井 四 郎 氏

員 辨 郡 笠 田 村 上 笠 田

二井家はその古きを傳ふるの記録なければ正確を期すこと能はざるも地方の舊家なるもの、如し、代々農を營む。先代増治郎氏に至りて石灰製造を業とし、傍ら助役、郡會議員、消防組頭、村會議員等各種公職に歴任して地方自治上の功勞者として遇さる。

當主四郎氏はこの名家の二男として明治二十九年一月二十日を以てこの地に出生、四日市商業學校に學を修め卒業後渡鮮在鮮二年にして歸り大正九年現在の毛織工場を創業し好況時に乘じ業運旭日昇天の勢ひを以て發展地盤堅固を加へ現在に及べり、これ全く氏の時世を見るの敏の致す所といふべし。

爾來令名昂く消防組頭、桑員織物副組合長、員辨郡工場會副會長、笠田産業組合長等現在は村農會長、郡農會議員、學務委員、森菊毛織株式會社取締役等の公職にあり今や各方面から尊敬せられる。

名望家の語る

東京萬有製藥出張所長

木本祐三氏

名古屋市東區京町

氏は藥劑士にして藥種商を營んでゐられ、東京萬有製藥株式會社出張所長である。

藥品の販賣を主に處方箋の調劑をも兼ねてゐられるが氏の近隣における評判はすばらしいものにて斯業一方重鎮である。

今日の旺盛を得たは惡戰苦闘した賜ものが一重に信用を積むに重きを置き收益は二段として誠心誠意店舖の繁昌せんことに心掛けたからであり其の手腕と識見は各方面から非常な期待を以て迎へられてゐるが店舖連日千客萬來の有様である。

日夜努力奮闘され

新進氣鋭の人材

渡邊貞治郎氏

桑名郡七取村

名望家の語る

活動力旺盛、才智縱横の新進氣鋭の人材を渡邊貞治郎氏となす。

氏は愛知縣海部郡立田村の人、伊藤善吉氏の次男にして明治十年四月三日生る後渡邊新三郎氏の家に入る、當家は舊米麥雜穀商を經營し肥料商を兼ね、大正九年雜穀販賣を廢し醬油釀造をなし屋號を丸江屋と稱す。

氏は名古屋第一中學校の出身にして家業に従事される傍ら意を村治に用ひ、盡瘁功勞せられ明治四十年村會議員に選出せられ爾來毎回當選され今日に及ぶ。

其間大正四年村助役に推され、幾許もなくして村長に擧げられ一期勤められ、大正九年郡會議員に選ばれ現在は村會議員其他學務委員、所得稅調査員、七取村商工會長等の要職を兼ねられ其活動振の水際立つて鮮かなることは注目の的となつてゐる、因に氏の長子は村青年團長として重きをなしてゐられる。

名望家たる語

商才にして温厚で
社交に富んでいられる

小林慶次郎氏

員辨郡久米村

氏は現本村々長であり醬油醸造業として名望家である。
商才に長じ温厚にして社交に富んでゐられ開業以來絶えず其の改良に苦心を怠らず今や桑名、富田等に支店を設置せられ販路を廣め殊に郡内醬油界の發展を計られ専心其の改良に盡瘁せられ公共に勞を惜まぬは何人も知る所で郡内主要の人材である。
因に氏は風流に長け俳諧を能くすと令聞は桑名町宮崎久六氏の二女にして才媛の譽高い。

名望家たる語

内科小兒科で
令名高き

渡邊 猛氏

西桑名町

仁醫渡邊猛氏は醫界新進の人物醫學士である。
患者の診療に従事する傍醫、學徒として熱心なる研鑽を續けられ其の専門は内科小兒科にして卓越した手腕と非凡なる學識は世評の語る處十目の視る處十指をさし示す處嚴なるものがある。
氏は金澤醫大の出身にして社會の尊敬と信頼を受けてゐられ才色兼備の方で讀書を愛好せられる事限りないと。

名望家の語る

創業以來二百年
多度豆本家(桔梗屋主)

水谷長平氏

桑名郡多度村

氏は村の名望家にして現同村商工會長青年團支部長である。寶曆の頃多度山八壺谷の入口に豆を賣る老婆があつた。その後長九郎と稱する人が店を譲り受け、業を繼いだ、是れが桔梗屋の祖先で多度豆の創始者である、斯くして多度豆桔梗屋はその元祖で現在四十五名の同業者中最も老舗と認められ、當主水谷長平氏は年齢三十才の若い方働き盛りの人である。尙名産組合長に推され好評を博してゐる桔梗屋は嘉永年間火災に罹り一物を残さず烏有に歸した爲古い家寶家什を焼き沿革史の材料を失つたが創業以來二百年を経過し代々業を繼いで今日に及んでゐる。舊藩時代桑名侯の御用を承けてゐた、多度豆は始めは豆に豆の粉を付けたのであつたが歳月と共に改良せられ明治三十七年頃の現在では黒砂糖で丸め、其後更に一大改良を施し白砂糖を用ふることとなり製法に於いても桔梗屋では昭和三年以來全部發熱を利用しその甘味に於ては右に出ずるものがない。桔梗屋はその他紅梅焼及砂糖漬を製造してゐられ、砂糖漬は多度附近には蓮根、生姜、蒟蒻、柚、ワサビ、人參等優秀なるものが澤山出來るので之を原料とし

四季を通じて菓子造つてゐられ、紅梅焼に就いては當店獨特の製法と品質の改善とを以て老人子供にも食せられる様に改良をされてゐる。

將來を囑望されてゐる

水谷清一氏

桑名郡多度村出身

名望家の語る

氏は桑名郡多度村の出身にて桑名郡穀物検査員として二年もたゞづして三重縣産業技手に昇進され桑名穀物検査所次席としてよく主事を補佐せられ其後三重縣伊賀上野穀物検査所次席に榮轉され現在同管内佐奈具穀物検査所主任に榮轉され今日に至つた縣下米穀界の發達は氏の努力に期すべきもの多い因に近く主事に昇進せらるるのも遠くはあるまいと一般の觀測である。

名望家語る

縣會議員
桑名町商工會長
會社々長重役

山本重治郎氏

桑名町

氏は縣會議員、桑名商工會々長、町會議員等各方面の役員を努められ縣下屈指の事業家として令名高き山本重治郎氏は明治十二年五月一日煙草製造家たりし三重郡朝日村山本源左衛門氏の三男として生れられ同三十四年分家して一家を立て同四十一年桑名に移住せられ各工業界に發展せられ今日に至る。氏の關係會社事業は漁網及撚糸製造、鑄物部、アイロ部(有名な乙女アイロン)瑛瑛部、木工部等にて中央度量衡株式會社々長桑名土地建物株式會社、同電軌株式會社各取締役、桑名鑄物産業組合長、同アイロン工業組合理事長、有限責任桑名金庫理事、株式會社日の出市場社長等を兼務せられ縣下實業界の大御所格として他の追隨を許さざるの實力を藏して重きをなし近代的事業家である。

名望家語る

學識高邁人格高潔
品位風格ある

松本 誠雄氏

桑名町赤須賀

師は舊藩士族にして慶應二年五月に生る。藩立立教學校を経て上京し神田共立學校に英語を修め明治二十四年郷里員辨郡小學校に教鞭を執り赤須賀小學校長を経て三十四年退職し更に東京日本橋十思、久松各小學校に訓導を拜命し大正九年病氣の爲め歸郷し、全快後一年を赤須賀校に奉職す。
大正十一年九月郷社赤須賀神明社々掌となり昭和八年二月病氣加養の爲退かれた。

名望家語

舊松平藩小寺家の末裔
從五位勳四等

小寺 銈次郎氏

桑名町外堀

氏は舊松平藩小寺家の末裔、萬延元年五月十三日東京日本橋に生る。夙に遞信省技師として十有五ヶ年を官界に送り更に臺灣總督府に轉じて十有九ヶ年の星霜を技師として勤め大正四年官界を退いて同九年縣社鎮國守國神社々司を拜命され昭和八年三月病氣加養の爲退かれ從五位勳四等たり家庭に養女あり。

名望家語

自治体諸般の爲に功績を擧げられ
亦地方金融界に努力せられつゝある

藤田 平太郎氏

員辨郡稻部村

氏は土地の名望家にして多年村長の職に在りて自治体諸般の爲め大なる功績を擧げられ傍ら公共事業に銳意盡瘁せられ其の見るべきもの大なり一に氏の勞あづかつて大なりと云ふも過言でない。尙氏は三重相互無盡株式會社々長の重任にあり地方金融界に努められる事も亦大である。且つては日露戦役に出征して功勞あり勳七等を賜つてゐる。資性は温厚にして公共心に富む。

名望家語

人望多大温厚な

五井清哉氏

桑名清水町

氏は文久二年八月十九日生にして醫を業として熱心甚た勉む蓋し老練にして人望多大なり。

茶道俳諧を好むを以て其の人物の温厚にして順朴なるを知る可し。

氏は岐阜縣不破郡關東村河崎清兵氏の四男にして五井家に養子となる氏の長男醫學博士五井義雄氏は家業を繼いで大いに飛躍せられ桑名電車通りに病院を設け院長である。

名望家語

株式界の飛將軍として

東西市場に其の名を博しつゝある

河瀬文一氏

氏の嚴父は米穀取引仲買人であり員辨郡出身中の成功者なり、其長男にて今や巨萬の富を積み株式界の飛將軍として東西市場に其の名を博しつゝあるは人のよく知る所にして曩き取引所から名譽金牌を授けられて同業者中の最高取引者として賞せられた屋號カネの名は業界に恐をいだかしむる程に勢力を持ち信用を握つてゐる。

尙氏は公共に財を投じて獨り喜び育兒院等は多大の恩惠を受けてゐる

桑名郡深谷村
尋常高等小學校長
名望家語を

桑名郡深谷村
尋常高等小學校長
渡邊七三郎氏

氏は員辨郡白瀬村本郷の出身である。
郷土の小學校を卒業して三重縣立師範學校に入つて優等の成績を以て卒業せられるや訓導となり各所の小學校を歴任すること多年兒童を導くに信念を以てし大いに盡す處あつたから校長に昇り現今は桑名郡深谷村尋常高等小學校にあつて兒童は云ふ迄もなく村民より尊敬をばらはれてゐられる。氏の資性は篤實なる人と聞く。

財力手腕

世人の信望高き

伊藤覺左衛門氏

桑名町

名望家語を

氏は各種の公職を兼ね財力手腕の兩者を擁して雄飛しつゝあるを伊藤覺左衛門氏とす。

氏は明治十九年十二月四日を以て上山一之助氏の長男に生る。幼名を覺次郎さんといふ、長じて伊藤覺治氏の養嗣子となる。

岳父覺治氏は米穀商より株式仲買人となつて成功せる傑物である、氏は四日市商業學校の出身にして大正九年家を繼ぐ、爾來家事に執掌すると共に、社會自治の爲に力を用ひて來た、漸次世人の信望を得て重きをなし今や各種公職を兼ね据然たる勢力を有していられ氏は他面頗る多趣味の人にして俳句は昨年中島商工大臣を招いて俳句の同好會を開かれた等書畫寫真術等に長じてゐられる、また佛教の熱心なる信徒である。

名望家語を

親切懇情を以て
信用ある

稲垣

久實氏

員辨郡阿下喜町

氏は内科婦人科の仁醫である。
曾つて金澤醫學専門學校を卒業して久しく病院等に醫術の研究を積ま
れ現地に開業せられ親切懇情とを以つて患者の方の信用を得盛況をて
いするに至つた
氏の趣味は寫真であると。

名望家語を

西桑名町長

松本長藏氏

氏は西桑名町々長にして員辨郡石樽村岩花久七氏の三男に生れられ松
本家へ養子に入られ町民の信望は益々厚く遂に推されて町長になるや
町治上の爲には身を粉にしてもと努力し投財を吝まらずただ一途公共の
爲め心掛けられてゐられる。
氏は投機に對する眼識は恐しきものにして大いに腕を揮ひ今日の巨萬
の富を積まれた方である。

名望家を望する語

名望徳望家にして
和歌を能くし風流に親しむ

飯南郡射和村
竹川信太郎氏

氏は射和村長及郡村の各種役員を務められ多年村治の爲に貢献して治蹟擧り村民皆氏を徳とす。

氏は竹川竹齋翁の孫にして三十七八年役の功により勳七等に叙せらる氏は和歌を能くして風流に親しまれる。

竹齋翁の事蹟に關し内閣官報局より褒賞文を受けられてゐられる。

名望家を望する語

前衆議院議員

木村秀興氏

員辨郡稻部村

氏は明治五年十月に北大社で生れられ東京帝國大學文科を卒業せられ文學士の學識を有つてゐられる。

大學卒業後は家にあつて農村振興に努力せられ小作人をして農事を奨勵せしめられ、勸業に熱心である。

氏の親父誓太郎氏は多額納税議員として貴族院に議席を占めた事もあつた。氏は郡村の向上發展に資する處多く實業界方面にも有力なる人物と指を折られてゐられる尙一般より恩人として信賴されてゐられる。

名家望を語る

富豪として知られてゐる

伊藤紀兵衛氏

桑名町

天下の富豪として知られてゐる伊藤紀兵衛氏はたの社會事業に多數の寄附をなして町民から徳望家とし畏敬されてゐる。



△多度神社 山林四十二町九反(壹萬圓) △桑名町へ伊藤特別基本財産として壹萬圓 △桑名中學校へ建築費六千四百圓 △東京大震災へ壹萬圓 △三陸地方水災へ壹萬圓

温厚實直な

鳥谷尾友次郎氏

出身一志郡多氣村

氏は教育家にして現縣立山田中學校に奉職せらる。明治三十六年本縣師範學校を卒業して直に多氣尋常高等小學校長に任せられ三十九年久居町小學校訓導に轉じ、四十四年龜山女子師範學校に轉じ大正三年多氣小學校長、其後郡視學現松阪市第一尋常高等小學校長(當時松阪町第一尋常高等小學校)度會郡二見尋常高等小學校長にして高等官七等に叙せらる。現縣立山田中學校書記として大いに敏腕を揮つて居られる。明治十三年三月十四日生である。

名望家たる語

人格温雅
識見高邁な

水谷又造氏

桑名町

氏は文久三年九月の出生にして大正十一年村長に推れ又昭和二年縣會議員に選ばれ縣政界に雄飛し生彩を放ち第一流の政客と稱せられてゐた。

今や元老として自治界に權威を謳はる。老齡をも厭はざる精勵は畏敬すべきである。

學識人格ある

平野助右衛門氏

桑名船馬町

名望家たる語

家は累代材木問屋にして舊桑名藩の御用を達した。

氏は明治二十三年九月二十七日生れ學序を追て進み神戸高等學校を卒業大正二年日本郵船會社に奉職せられ同九年嚴父の逝去の爲め辭し歸られ家督を繼ぎ業に従事せられると共に其の學識人格は期せずして衆望をあつめ桑名町の各種の役員を務められ各會社の重役を務められ縦横に手腕を揮つてゐられ資性温厚篤實にして頭腦澄透徹である。

名望家の語る

吟醸の銘酒
花娘 小松鶴 醸造元

森 喜 兵 衛 氏

三重縣桑名町

名利に超然として一種脱俗の風格あるを森喜兵衛氏となす。氏は明治十九年の出生にして幼名を喜生氏と稱す、家は波切屋と號し舊魚問屋を營み藩の御用を務めたといふ、後之を廢し酒醸業を創めて今日に及んでゐる。

先代は才氣豊かな商傑にして桑名紡績桑名銀行を初め各方面に手腕を揮つて令名が高い。

氏は四日市商業學校卒業後幾許もなくして家督を相續した。銳意家内の繁榮に努むると共に社會自治の爲に尠からず盡瘁貢獻してゐられる。

氏は自から名を求めざる表面に立つことを慾せず、尙當店吟醸の銘酒小松鶴、花娘は近郷は及ばず縣外に知られ好評を得てゐる。

名望家の語る

藤原氏の流れを汲む名門家
前桑名郡七取村長

伊 藤 元 次 郎 氏

桑名郡七取村

氏は慶應三年八月十八日本村香取に生れられ十六才の時小學校に教鞭を執り其後戸長役場に書記を拜命爾來大字總代、消防組頭、村收入役、村長を五期二十餘年在任され町村制施行後本村々治の過半は氏の村長の下に運用されたのである。

尙村會議員、郡會議員、郡參事會員、郡農會評議員等を兼ね識見手腕の卓越せるは勿論徳望あり。

趣味としては俳句に長じ書畫骨董を愛好してゐられ長男七郎氏は東京瓦斯會社に勤務せられてゐる。

創立の古きと信用確實を以て
世間一般の名ある
入○株式会社主

渡邊 覺 右衛門 氏

員辨郡阿下喜町本町
電話長八番六三番

氏は名望家にして員辨郡山郷村の地主である。

明治三十年二月十九日麻生田に出生せられ年少にして漢籍を學び共興學校を卒業後身を銀行界に投じ縣下各地に轉々として地方金融界に大いに盡す處あり後三重縣廳に入り恩賜財團濟生會三重縣主任に拔擢されて専心救濟業に奔走して大なる功績を爲したが官職を辭するや株式界の人となり入○株式会社と稱し、公債、社債、株式現物賣買業を營む傍ら仁壽生命帝國火災保險會社代理店として大いに活躍してゐられ將來有爲の人物である。

教育家 奥國太郎氏の宅を訪て

西桑名町大字東方

やつと得られた「二十分」

奥校長の忙しい事はよく知つてゐるので、普通の用件は、常に電話で済すことにしてゐた次第であつたが、今度こそ是非逢はねばと考へたが「來客だ」「授業だ」と謂つて、學校では面會する事が出來ぬ宅を訪ねれば留守。これで五回目である。午後七時と云ふ夕餉時をねらつて、やつと應接間の人となるを得た。奥の方では盛んにニュースが放送されてゐる。待つこと十五分。つれづれなるまゝに、室内捜査をやる事にした。机上には、講孟劄記、日本教育史、藤樹先生の學徳、盤若波羅密多心經講話、實例法醫學と犯罪捜査實話、捜査實例集が置かれてあり、ウキネツカ教育法の一部が譯されてゐるのが眼にとまる。一隅の本棚は世界思想全集と、明治文化全集で一ぱいになり、他の一隅には生々とした西洋花が二段にさゝれてゐる。

明治大帝の御肖像、西郷隆盛の胸像、油繪等が裝飾の重なるものである。

氏、昨今のアウトラインが此の室内に縮約せられてゐるが如き感じがする。

ニュースが終つた。

元氣ある姿が現はれる。待たせた詫言に、ついで八時に某家を訪問することになつてゐるので、面談

時間を『二十分』にして呉れとの事……。

◆ 話 は 眞 剣

話はすゝむ。談、氏昨今の主張であり、努力点である日本主義教育に及ぶに至つて愈々眞剣味をおんで来る。殊に、教育勅詔の御趣旨徹底に關しては、涙を以て説いて來られる。昨今國民の多くは思想國難を叫んでゐるが、之れを救ふの途は此一法あるのみだ。即ち『小學より大學に至るまで、共力一致相提携して、教育勅語の御趣旨を全國民に徹底せしめねばやまぬとの堅い／＼決意と奮闘とをなせばよいのだ』と謂ひきつて行くところ、信念そのものゝ如くである。

氏は又心から子供を敬愛する。常に氏の口から『眼の中へ入れても痛くない位、かはゆく思つてゐる両親の大切な子供さんを預かつてゐるのだから、決して粗末には出來ぬ』と。要するに『貴下の教育意見は』と……。たゞけば

即座に

一元二義の教育さ……。一元二義とは全人類に對する根本的指導原理を、教育勅語に歸一せしめ、特殊の原理として、國旗を中心として、我が國民意識を啓培し、神宮を中心とすることにより、我が縣民意識を闡明せしめなければならぬ。僕の教育意見は之れ以外にないと謂つてもよいのだ……。と喝破する。

◆ 型 く づ れ

氏は教育者にして、現今の教員型を脱してゐる。極めて民衆的でよく話す、よく動く、のんきそうに見えて中々細かい所に氣がつく。殊に眼識に於ては、恐ろしい位のするごさを持つて居る、すぐ要領を

つかむ。人を見る。實に恐れ入つたものである。加ふるに寛容、大度であるがため、西桑名町教育界は全く無風状態である。實に落ちついたものである。そうして着々實績をあげて行くのみならず。如何なる仕事でも、極めて明快にさばいてしまふ点は、確に教育者として風がはりである。

又氏は常に、『教育を求めんとすれば、見界を教育以外にまで及ぼさねばならぬ』と云つてゐる位だから、讀書も極めて廣範圍である。交友も亦各方面を網羅してゐる。従つて人世話も亦よくせられるがため、郡教育界に於てはなくてはならぬ人物なのである。

以前はかなり左黨の驍將であつた様であるが、何に感じてか昨年中頃から心境に變化を來し右黨に轉向、尙且煙草まで排すると云ふしまつ振り。實に教育者としては、全く型くづれである。

氏の畧歴

明治二十三年三月十日……三重縣阿山郡山田村大字甲野西口兼藏氏四男として生る

全 四十五年……全山田村大字千戸奥家に入籍

現住……桑名郡西桑名町大字東方輝松園

明治四十五年三月三重縣師範學校本科第一部卒業、桑名、伊曾島校訓導——桑名町立第二校訓導——

三重縣女子師範訓導——志摩加茂校長——全島羽校長——現職

三重縣よりの命により一昨年北米の教育狀況視察の後歸朝

桑名望家の語を

人情署長として令名高き
桑名警察署長

瀬田 功氏

瀬田功氏は一志郡大三村に生れ現在桑名警察署長として其敏腕と温情味豊かなのに署内は勿論一般の人々から畏敬されてゐる方で人情署長として知られてゐる。

同氏は且つては教習所教官、富田、大泉原、上野の各署長を歴任各地方で信望を惜んでゐられた方趣味として俳句、尺八まで且つて中島商相から同氏の孝子深きに感銘されて自筆の俳句を贈られた事もある程で同氏の將來は洋々たるものである。

専心會社の發展に

努力せられつゝある

佐藤 三郎氏

桑名町

桑名望家の語を

桑名新築に住居を構へて毎日北勢鐵道へ御勤の佐藤三郎氏は營業長から支配人になつた人であるが北勢鐵道は現在桑名中の種々の會社の中で成績は上位にある方で佐藤氏は會社の全責任と仕事上に背ふてゐられる人で眞面目で几帳面な人である。

慶應大學出身で趣味としては野球、玉突、狩獵、庭球なんでも素人の境を脱してゐられる方で最近スキも中々熱心に練習されて北勢地方のスキヤーの牛耳を取つてゐられる程である。

同氏は何事もテキハキと處理される主義である、それが爲氏の生活は會社、家庭、遊戯等の時にはすつから氣分を變へて行かれる、家庭では一家團欒のお父ちゃんやんで會社では専心社の發展に腐心される、それが爲成績は益々向上して行く、それが爲め重役にもよければ下僚にも慕はれる人で其の前途に對しては各方面から期待されてゐる方である。

桑名町一色町
名望家たる語

屈指の資産家
東諸戸家の重役
小池 一氏

桑名町一色町

桑名町の小池一氏は桑名町屈指の資産家東諸戸家の重役であつて、現在では小池氏の諸戸家かと云はれる程一般及諸戸家から信用されてゐる方で明治三十九年東京帝大政治科出身で日本銀行に勤め名古屋銀行京都支店長等を歴任され大正六年諸戸家の支配人となられた方で謹厳其のものゝうちに温厚で親切な君子肌な人であるが流石は政治科出身たけあつて却々の外交的手腕を持たれた方である。外來者に對しても親切に面接され何事でも一度は考へて置きますと面接者に悪感を抱かしめずに歸へらしめる方であると共に自己の信念を活かして行かれる。同氏は事業家であると共に政治的方面にも非常に興味を持たれ桑名町としても手腕家として認められてゐるので其の將來に於ける活動を非常に期待されてゐる。

桑名町
技術家たる語

北勢樂壇の
有名な樂人
山田 安久氏

桑名町

山田安久氏は大正十年東京、東洋音樂學校出身の音樂家でセロ、ヴァイオリン等各方面に秀でゝゐるが特にピアノは専門で桑名では有名な樂人であるが、東洋音樂學校を卒業後東京少女歌劇團に入られて音樂の研究及教授をなしてゐられたが同劇團が福井、金澤、新潟、仙臺方面に巡業に行つた際はなくてはならぬ人として迎へられて指導に萬全を期せられたとの事である。昭和二年桑名町に轉居され名古屋市松阪屋音樂部の早川樂長の紹介に依つて現在奉職されてゐる株式會社旭劇場の音樂部主任として就任され居を西桑名町第二小學校西側に移されて現在に至つてゐられるが同劇場のオーケストラが北勢に於て最優秀と云はれるも宜なるかなだ。山田氏は其の他にも昭和三、四、五、六年の間芙蓉音樂會を作り桑名、三重、四日市の各小學校に於て音樂會を開催其の優秀なる技能に依つて有識者階級から絶讃の聲援を與へられた人である。昭和六年二月二十八日には本社桑名支局後援のもとに桑名第二小學校ホールで北勢兒童聯合音樂會を開催した時等も三重、桑名西部から多數の兒童が出演した事に依つても其名譽と憧れ者の多かつた事が推測される。尚山田氏は現在でも桑名町第二小學校西側でピアノ科オルガン科の教授をなしてゐられる。

名望家語

謹直、眞面目
徳望高き

一一 井 貞 吉 氏

桑名町今片町

氏は現に桑名金庫理事町内祭事長で家業は醤油製造業である。

富田中學第十一回の卒業で在桑名同窓會中若手の牛耳を握つてゐられ近來頻々と種々な公職を持込まれ謹直と眞面目に蒐る徳望はその蔭口にさへ悪評一つも聞かないと云ふ無難な方である。

趣味としては謡曲に一生懸命な外、ラヂオ寫眞など可なり知られた技術を持つてゐられると云ふ事である。

公共的の觀念が厚く

温厚な

岩 間 節 藏 氏

桑名町船馬

名望家語

氏の生家は一志郡の豪家である、先代久八氏の養子となつた人、富田中學を卒てから一路今日に至つた

比較的平坦な幸運兒温厚で人格的な、謙讓家で且つ人情にもろい人である、現に郡料理飲食組合長であるが此の様な役は眞平御免だと逃げても逃げ出せない『船津屋』の名に於いても萬代不變だと云つた調子で又今年も組合長の印繼承した。

蓋し温厚な岩間さんの徳の成さしむる處で平和と無難た言はれ先ず第一に岩間さんに集る懇望である氏は西伯利亞戰爭に出征してゐる、趣味は深く茶道に熱心である。

教育界の元勳

神 野 嘉 郎 氏

桑名町船馬

名望家語

明治二十五年三重師範學校を卒業し松坂を振り出しに津、一志、牟婁、河藝、龍山等を歴任三十九年鈴鹿郡視學、續いて三重郡視學、津市視學を経て大正六年六月桑名町第二小學校長に就任、昭和六年三月退職されたが大正十二年三月教員功勞者とし勳八等に叙せられ瑞寶章を授けられた、教育界の元勳で現

在は家庭に在つて趣味の書に日夜を過ごしてゐられる。
昭和三年五月二十五日奏任官待遇を受けられ同年九月十五日從七位に叙せられる。昭和四年七月二十七日勳七等に叙せられる。昭和六年三月十日小學校俸給會により功勞ある一級上俸を受けられた。

志操堅固 質實剛健な

内田定吉氏

桑名町北町

名望家語

現内田養密蜂園主内田定吉氏は明治三十九年現役志願で入營せられ大正三年に桑名聯隊區司令部附を命ぜられ同八年十二月迄庶務會計事務主任として勤務せられ、大正八年特務曹長に昇進勳七等に叙せられた、前後を通じて十一年間の軍隊生活を續けただけに志操堅固質實剛健で、苟めにも輕佻に流れた事が大嫌ひの人である、而も消極に流れず積極に走らす常に洒々として圓轉骨脱の人、禪味フンブンたる處が溢れて見えるが去りとして偽實に懸け隔れて行く程でもない、そこに内田氏の人生訓があらはれてゐる。

北勢金融界の王座

三重相互無盡株式會社を訪ねて

三重縣桑名

取締役社長	藤田平太郎
取締役	伊藤幸次郎
同	大矢知金七郎
同	水野茂助
同	水元隆治郎
専務取締役	長野庄三郎
常任監査役	土岐九十郎
監査役	種村榮松
同	瀬古米吉
支配人	近藤久一郎

北勢地方の金融界の王座を占めてゐる三重相互無盡株式會社は、大正八年一月大藏大臣の免許を受け社運益々隆盛である。各種の金融機關に比して便利な事は、所要の資金を手輕に融通が出来て、その元利を所謂濟崩して返せるのみならず、蓄財としては知らずぐに積立が出来、譯であるが、尙當會社は取締役連帶の無限責任であるから極めて安全であります。

尙詳細は電話又は葉書にて御照會あり、たし各種無盡の種類及方法營業案内を御一報次第進呈致しますとの事でした。かち貯金を爲さんとせられる御方は、趣味と實益のある當社の貯金法を利用せられ、又低利資金の融通を得んとせられる御方は、何かには便利なる當社を利用せられん事を御進め致します。

株式會社 名古屋銀行

△資本金 貳千六拾萬圓
△諸積立金 壹千四拾四萬圓

本店 名古屋市中區榮町
支店 東京支店、深川支店、新宿支店、淀橋支店
京都、大阪、六店、名古屋市内、愛知縣下
近縣各地三十數ヶ店、三重縣桑名町

中京名古屋に雄飛する二大本店銀行の一名、名古屋銀行は營業方針最も堅實であり、其の信用も稀に見る絶大なるものがある。頭取は金融界に令名ある恒川小三郎氏が据つて、常務取締役は財界で受けのよい小尾悦太郎氏、長戸儔氏、鈴木廣二氏頭取を補佐して、行務を統轄して居る。此の他に重役は實業界の錚々たる人々が連なつて信用を増大ならしめ、基礎の堅實さを見せてゐる。愛知縣を中心とする中部各縣には支店を出して金融の圓滑に努め、東京、大阪、京都に數多の支店を有し、東西の一流銀行に伍して、些かの遜色もなく營業成績良好であり、預金總額の如きも昭和七年下半年末には、一金九一、七七二、九一八圓にして、貸付金額五五、〇八一、四五二圓に達して居る。名古屋銀行の特徴は、内容の堅實と營業の方法が地味であるので、本店所在地たる名古屋人の間に信用を保持し、此の餘勢を以て近縣並に東西に根強く進出して居るので、今後の發展は一般事業界の躍進と相俟つて、多大の期待を懸けられて居る。

【102】

年金扶助料の受給者に對しては特に低利を以て金融の御相談に應ずる事に致して居りますとの事です。尙金融は信用確實なる組合員に限られてゐますから不回收に終る様な御心配は毛頭ありませんし一人澤山な金を利用させませんから、取引は最も確實であります。出資や貯金は郵便局や銀行などと異り直ちに同じ組合員の産業資金となりて相互扶助の實績を挙げますから組合員同志は實際的に親密の度を増す事になります、互に出資した資金や政府から融通を受けた低利資金や貯金などを互に利用して得た利益は全部組合員に配當致しますから純然たる相互機關であります、本組合の議決権は一人一票主義で権利は平等でありますから大株主の爲に利益を壟斷せられる心配はありません、役員の方方は最初に御紹介をさしていただきました名望家の諸公が絶対責任を以て親切に業務を行なはれ各人相互の福利増進に努力せられつゝあり組合業務としては貯金の種類に定期、當座特別、据置貸付に證書貸付、手形貸付、手形割引の業務を取扱はれ勤儉を旨として貯金を行なはしめて産業を發達せしめ實力の充實を謀り、信用道義の觀念を養い共存共榮の純美な精神を基として一致協力して組合の發展に役員事務員の御方は日夜務められてゐられるのであります。

尙参考に御紹介さしていただきたいのは昭和八年四月總會調査による組合員數千四百五十三人總口數六千九百十四口で出資金額は十三萬八千二百八十圓であります。

【103】

赤須賀漁業組合は組合の役員を初め十三名の總代五百名の組合員が一致協力され内容の整備またよく合体の方が奮闘され毎年の總會に何の議論もなく無事に總會を終了される等何かに縣内の優良模範組合があ

~~~~~  
の合組範模  
介 紹  
~~~~~

名望家の役員を紹介

赤 須 賀 漁 業 組 合

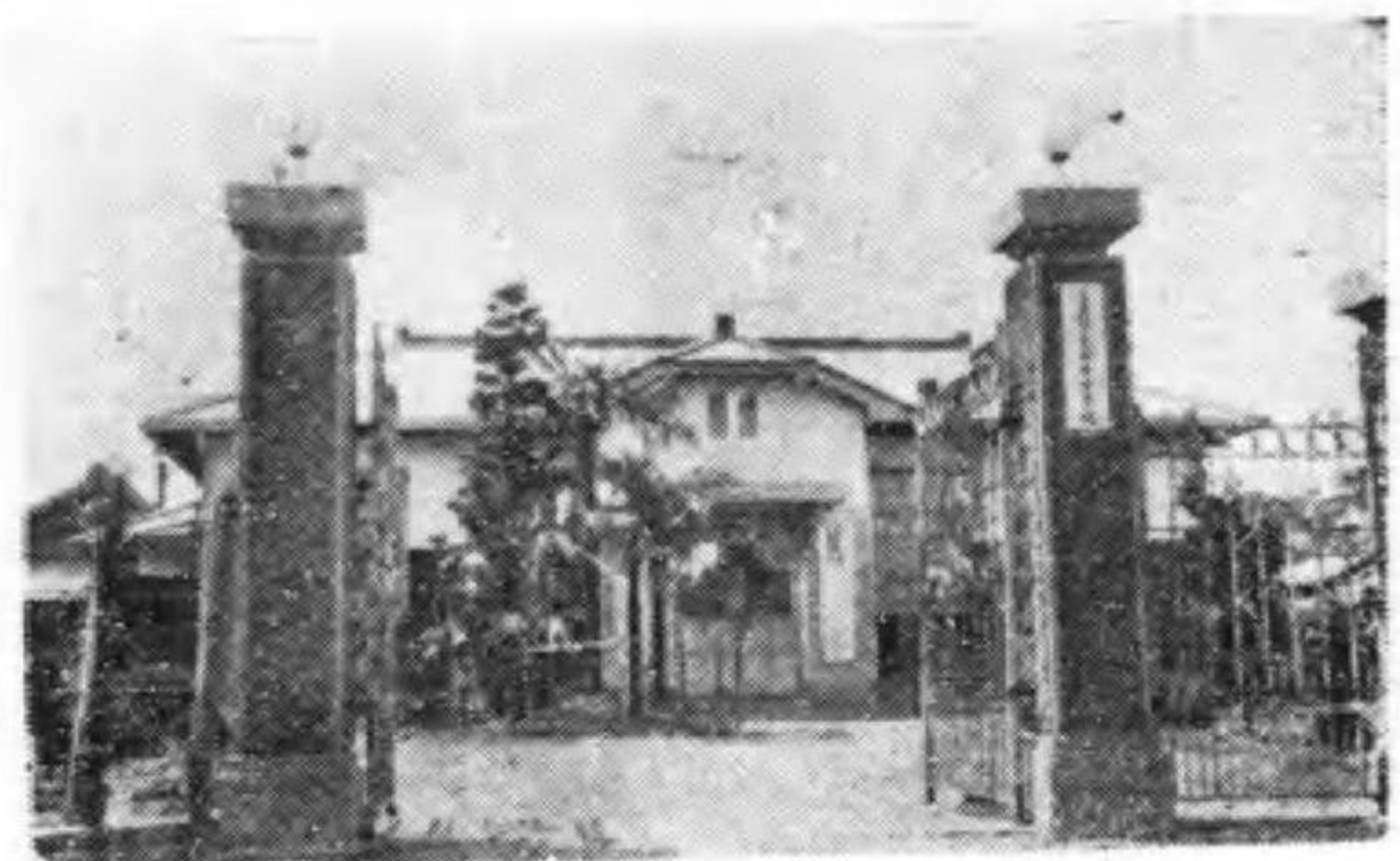
組合長理事	水 谷 新 一 氏
専務理事	上 原 銳 雄 氏
理 事	加 藤 與 惣 松 氏
同	星 野 彌 惣 七 氏
同	水 谷 卯 之 助 氏
同	長 谷 川 喜 一 氏
監 事	黒 淵 梅 吉 氏
同	星 野 吉 次 郎 氏

る、亦組合積立金巨額に達し、これを各地參拜費に充當し組合員をして敬神崇祖の念涵養に資し美はしき民情の吐露を認むるあり。

組合長水谷氏は大正五年以來漁業組合長として重責を荷ひ四〇坪二階建のモダンなる組合事務所の建設地方水産界に力を致せる功勞者で現組合長の外に縣水産會代議員、帝國水産會議員、桑名郡水産會長、赤須賀自治協會長、學務委員、商工會會長組員等地方水産界の紛議紛争を解決され邦家水産界の知名の士たり今日日本組合の模範視さるゝに至るは實に氏の努力と献身的奉公の念によるものと謂はねばならぬ。今日組合員の信望を一身に蒐め益々將來を囑目されてゐる。

今日組合長を輔けて力を盡す人に専務理事四氏あり、監事の任に三氏あり、上下一致して業運の隆昌を策しつゝ、今日に及んでゐる。

三重縣立員辨實業女學校



入學資格 高等小學卒業又は高等女學校第二學年修了者或は年齢十四才以上にして之と同等以上の學力を有する者

修業年限 二ヶ年

卒業資格 高等女學校卒業と同等以上(小學校教員の無試験檢定) 上級専門學校の入學資格等

寄宿舎 家庭的共同自炊生活にて實費一ヶ月約五圓

本校の特色 高等女學校第三、四學年の智識、技能を授けると共に女子に必要な裁縫、家事に主力を注ぎ其他地方の實際生活に即したる教育を施す

現在職員

校長	正六位高橋隆三	書記	瀬木與六郎
教諭	正七位朝倉清藏	生花点茶	長谷川たか
同	前田 稔	校 醫	岡 本 乾 一
同	竹内真一	齒科醫	春日部禮一
同	川村くにへ		
同	富田 恭		
同	梁川登志		

(寫眞ハ員辨實業女學校)

縣立桑名中學校

三重縣の東北隅に位置する桑名中學校に大掛斐の流れを渡つて伊勢路に入る旅客の眼を惹いて桑名驛西の丘上に聳えてゐる。同校の設立は大正十三年。當時中學校への入學難は積年深刻を加へて幾多志願者又は其家庭の悲劇を生み出した時に當つて、縣下他の都市には夫々中等學校があつて父兄も子弟も恵まれてゐるが夥多の志願者を擁する北勢文化の中心として歴史を持つ桑名町は未だ何等の施設がなかつたのであるそこで中學校設立要望の聲は次第に高まつてその機運も熟して來た。此時町當局の大英嗣と有志の幹旋とが相通じて全國稀有の町立中學校が生れたのである、されば同校の創立は先づ『天の時』の宜しきに遭ひ、『地の利』を占めたものである事は固より、更に全桑名人士の教育に對する熱誠と意氣の結合による『人の和』を得たものと言ふべきであらう。斯くて前途を祝福せられ初代校長として吉川種清氏を迎へて開校したのが大正十二年四月である。爾來桑名町立第三小學校の一部を假校舍とするこゝと二ヶ年、大正十四年四月現校舍に移轉し、同十五年四月縣立に移管して、定員を五百から七百五十に増加して今日の盛大を致したものである。

卒業生を出すこと五回、其の數四百十九名年次の淺いだけに未だ社會的に名を成す者こそ無いが何れも母校の名を脊負つて各方面に健闘してゐる。

縣下中學校中の最新進、それで校内の設備は全く完成して見るからに新しく明るく感じの良い學校である廣袤一萬坪の敷地を擁し、五千有餘坪の運動場は丘陵の脊に廣がつて多度の翠巒を負ひ伊勢海を俯瞰する形勝の地を占めてゐる。環境の高燥、教育の淨地として理想的だと言へよう。殊に誇の一として御大典記念圖書館を持つて居る工費五千圓近代的設備を持つた館内には四千圓に近い圖書を藏して生徒の閲覽に供し讀書慾を満足させて居る。中等學校としては稀に見る設備であり、こゝに便益を得る者を幸と言はねばならぬ。

由來桑名の地は寛政の賢宰樂翁公に由縁のある所、その勤儉尙武の遺訓は今も此の地に質實と勤儉の風を傳へて居り。従つて桑中生徒に此の氣風の横溢するものも自然であらう。初代校長の吉川氏は創立以來八年間此點に意を致して校風の培養に努力されたものである。全校總員亦新しい『桑中』の名を汚さじと同心協力只管健實な發展に盡して來てゐる。吉川氏榮轉の後に宮地雄吉氏就任。昭和八年三月三十一日前宮地校長は三重縣視學官に榮轉せられ後三重縣立尾鷲中學校長上山熊之助氏就任本校に榮轉現在に至り本校の傳統を繼承して更に善美なる校風發揚の爲に銳意盡瘁してゐる。

【108】

『誠』の一徳をモットーとして『明かなれ、淨かれ、直かれ』とは常々生徒に與へられる訓育の言葉である。生徒の態度の眞摯なものも亦尤もと言へやうか。あの日々の課外に校庭で鍬を執り帚を取り、土車を曳いて作業に勤めてゐる健兒らの様を見るだけでも彼等が學校を美化し自己を磨く心持の眞剣さが看取される。

近來同校のスポーツに於ける躍進も著しいものがある。就中水泳部の活躍は年來三重縣水上競技選手權大會に目覺しい成績を擧げてゐる、特筆すべき同校出身の選手平泳の小出選手は全日本水泳に押出して堂々の地歩を占めてゐる。さて同校も本創立十周年を向へたので十年一昔でこゝに一つの時代が劃されるものと將來が期待されてゐる。

縣立桑名高等女學校

本校は明治四十三年桑名郡立高等女學校して現在の地に産聲を擧げ、同年四月初代校長杉本美之助氏を迎へ、同年六月廿五日華々しく開校式を擧げたが元の桑名第二小學校を假校舎とし授業を行つてゐた。

其の後大正二年三月初めて第一回卒業生を出し大正十年九月廿六日不幸にも大暴風雨の爲二萬七千餘圓を以て増築しつゝあつた本館二階建校舎は無慘にも崩壊されてしまつた。然し翌年三月には新築なり四月一日縣に移管され、三重縣立桑名高等女學校と改稱せられて今日に至つた。

【109】

其後大正十二年に二萬六千圓を投じて講堂を、昭和四年三月、一萬餘圓を費して校舎を、更に一萬餘圓を投じて圖書館を増築し現在の如き堂々たる偉容を持つに至つたのである。卒業生は既に千三百餘名に達し。或は教育者として、女醫として全国各地に目ざましい活動を續けつゝある。第五回には閨秀畫家として有名な柴田千代子氏同じく同期に桑名に堂々たる病院を持つ大高ひさ子氏をいだした。現在生徒は約六百名職員二十六名で主として桑名、員辨、三重、三郡の乙女を收容してゐるが地理的關係から愛知縣、岐阜縣からの通學生も相當の數に上つてゐる。

『母性愛を基礎として優しく強く明るい女子となつてほしい。女子の本願領は愛にあります、誠にあります、此の愛の力により誠の光によつて自己を優しく自己を強く修養するのが女子たる本領を發揮し、人生を平和に強く明るく送る所以であります。高等女學校の四年間は人生の外にあるものではありません。人生の春とも云ふべき最も大切な部分でありますから、學校にありても家庭にありても常に優しい心を持つて學を修め、業を習ひ、人と交はるには愛を以てし、與へられた仕事は親切にし、自己の本分を盡すに周到なる理智の判斷と満身の勇を以てしたならば優しく強く明るく其の日其日を送る事が出来ます』これが本校の教育方針で中村校長が常に職員に向つて生徒に向つて強調されるところである。『明るく強く優しく』をモットーとして訓育される六百の乙女は、自由にのび／＼としたほがらかな純な氣持のよい成長を遂げて行く。

本校を訪れる誰もが目につくのは本館前の奉安殿であるが、これは昭和五年教育勅語煥發滿四十周年記念事業として職員生徒がそれ／＼淨財を寄附して出来上つたものである。其の建築様式が全く型を破つた近代的の明るい感じのする建築で多く類を見ないものである。

尙今一つの誇りは御大典記念圖書館である。堂々たる建築物と二千數百冊の書物を藏し各室にも一人一冊宛を備へてゐる等女學校として縣下は勿論全國にも餘りかゝる類を見ないであらう。

行樂の最適地

隆昌發展する

員辨郡七和村

【111】
本村は芳ヶ崎、森忠、星川、巖新田、嘉例川、五反田、大仲新田の七大字よりなり戸數三百五十餘人口一千七百餘名面積八一四三方軒（〇、五二八方里）役場は芳ヶ崎に在り現村長は内田所左衛門氏である。交通は縣道村道共によく開けて村内を縦走し極めて便利であり郵便電報取扱區域は大長局に屬しました北勢電鐵同社の乗合自動車の便あり阿下喜町及郡團警察の所在地たる大泉原村方面桑名町との便頗るよく名所は先般本社主催にかゝる三重縣代表行樂地公選投票に當選したあの廣見ヶ丘北勢唯一の行樂地廣見ヶ丘は四季を通じて行樂に好く桃花あり梨花あり櫻も數千本北勢鐵道運輸課の手により植こまれ葡萄狩栗拾ひと一日の清遊に家族連れの小ピクニックの最適地として縣下は勿論遠く名古屋岐阜の各方面から來遊者あり北鐵西桑名驛から乗車七和驛に下車して一步廣見ヶ丘に向へば眼界に入るもの此れからの季節に入つては一面桃花の波の數千株の古木の中を行く時はさながら樂園に遊ぶ心持である。其外有名な星川神社、八幡神社、神明社、天皇八幡社、森忠南神明社の五社があり、寺院には眞宗教願寺傳西寺がある。産業は農耕を主業とし農産にして年産一四五、八一二圓工産同一一八、八三八圓畜産同三、五〇八圓鑛産同二、九四四圓林産同一、四九七圓等で生産年額は二七二、六七五圓である。

桑名郡概要

戸数 一三、一二九 人口 六二、三八三
面積 一三九、九五二方呎(九、〇七四方里)

◆概観 本郡は三重縣の東北端に位し、東は愛知縣、北は岐阜縣、西は員辨郡に接し、南は伊勢海に面してゐる。河川は鍋田、木曾、長良、揖斐、員辨、大山田、曠江、多度の諸川がある。氣候稍冷寒ではあるが一般に平坦なる沃野遍く拓け天惠豊かな地である。

◆沿革 往古は桑名(松平氏)、長島(増山氏)、兩藩の分封治管に屬してゐたが、明治九年三重縣に屬し明治二十二年町村制實施に當つて一ヶ町、十六ヶ村となり、次で西桑名町(舊大山田村)の町制實施によつて現在では二ヶ町、十三ヶ村である。

◆交通 省線關西線の長島、桑名の二驛を有する外、伊勢電氣鐵道は桑名を起點とし四日市、津を経て山田に到り、又養老を経て岐阜縣大垣市に通ずる。國道は愛知縣より本郡に入り、宇治山田市及び關西方面に通じ、加ふるに木曾、揖斐、長良の三大川は船楫に利便する事頗る大で交通は至便である。通信機關は郵便局八、(内、集配局三、無集配局五)郵便取扱所一、電報取扱所五、電話加入六ヶ町村である。

◆産業 農、工、水産業を主とし、其の年産額を舉ぐれば、工産九、五四〇、〇二九圓(紡績綿絲織物、漁網地、鑄物等)、農産二、六六〇、六九二圓(米、繭、蔬菜等)、水産五五二、〇五七圓(沿岸漁獲食料製品、養殖)で、生産年額は一二、七八一、八一八圓である。實業團體。一二九で共によく發達してゐた。

◆遊覽地 桑名城址、桑名神社、中臣神社、天武天皇御舊跡、本統寺、法盛寺、本田忠勝の墓、薩摩義士の墓(以上桑名町)、多度神社(多度村)等があり、尙ほ國寶指定物に銅鏡三十面、神宮寺伽藍緣起一卷(多度村多度神社)、釋迦八相成道圖一幅、勸進狀一卷(西桑名町大福田寺)がある。

◆其他 教育機關は中等學校二(縣立桑名中學校、同桑名高女)、小學校二〇校である。

【114】

▲桑名町

明治初年に至る迄松平氏の管治せる所にして縣下六市街の一なり。西員辨街道に當り東木曾、揖斐、長良の三川を控へ南伊勢海に面し尾濃勢三國に跨る百貨集散の地たり。本町三崎通り宮通り等最も殷盛にして川口は其の港なり此より熱田へ七海哩往時間遠の渡とて東海道樞要港の一なりき。桑名停車場より町餘戸數五千餘人口三萬餘なり。國道が出来三大川架橋の實現を見るに於て北門の交通に一新紀元を劃する期して待つべきなり。

桑名に遊びて熱田に到る

あひそ來ぬ鮓かねて七里まで

芭蕉

▲桑名中臣兩神社 は共に大字宮通り本町の地境に鎮座す。桑名神社の祭神は天津彦根命久々斯比乃命にして中臣神社は天日別命を本座とし春日四社の神を合祀し俗に春日神社といふものは是なり兩社相並びて前に百疊敷の大拜殿あり又銅の大鳥居あり年の七月十一日に行はるゝ有名な石探祭は元町屋川原の石を採りて馬場の修繕に供へたのに始まり桑名町内四十餘ヶ町民が各々壯麗な祭車を曳き鉦、太鼓を打ち囃各競ふて壯麗なる山車を曳き列ね打つや鉦太鼓の音につれて神の心はいざ知らず人こそ先に浮かれる老若男女喧擾の狀恰も狂する如し極めて勇壯華麗の祭禮である。

▲鎮國守國神社 舊桑名藩祖松平定綱公及八代城主定信公を祀る。定信公は幕府の老中に任じて寛政の治績を擧げ後年奥州白河に閑居して悠々自適専ら餘生を風月に樂しまれたる白河樂翁公其人をいふ今や智深く識高く曠世の偉材にして其の文章道德は一代に高し遺風は猶藩士人の間に行はれ淳樸敦厚の美俗今に存せり。

▲天武天皇御舊跡 (桑名驛より二十町) 桑名町大字鍋屋町にあり。壬申の亂に際し大海人皇子の其の妃と俱に宿ごり給ひし舊跡を記念し奉る爲め町民一社を建造せるものなり。皇子の遺跡は其の近傍新屋敷と稱する地に在りといふ。

▲本多忠勝墓 桑名町清水町浄土寺に在り徳川家康の股肱四天王の一人として驍勇の名ありし本多忠勝が簀を易へしは則ち此地なり靈祠の左右碑あり蒼として古色を帯ぶ忠勝の重臣中根忠實梶勝忠殉死の屍を埋むるなり來りて日本古武士の靈を弔ふ者襟を正して英風を仰がざるはなし浄土寺には忠勝手栽の老紅梅ありしが近時寺の火災に罹り移して桑名町松平家晃氏の宅に植ゆ。

【115】

▲浄土寺 桑名町に在り浄土宗西山派にして袖野山西岸院と稱す京都光明禪林兩寺の末寺たり往時或は三崎の神宮寺と稱し賀治中僧道觀中興す寺内に本多忠勝公及其臣中根忠實梶勝忠の墓あり。

▲立坂神社 本社は俗に八幡宮と稱す桑名郡桑名町大字矢田と大字矢田嶺との地界に鎮坐する縣社な

り大日靈貴尊、神功皇后、應神天皇、玉依姬の諸神を祭神とす後明治四十一年二月廿日桑名町大字上野に鎮坐ありし村社四宮神社富士淺間社及山神社を合祀す抑大日靈貴尊は本社創立の祭神として延喜式神明帳に伊勢國桑名郡立坂神社とあり有栖川一品熾仁親王御筆立坂神社の奉額を存す明治二年 明治天皇御東幸に際し奉幣使を差遣され金幣の供進あり古來鷹司家の歸依最も深く定紋の幕提灯等の寄進あり領主世々崇敬篤し神功皇后應神天皇玉依姬の諸神は矢田八幡宮と稱せらる天正年中豊臣秀吉尾張五明に對陣するや織田信雄の陣所矢田磯に赴き和を講せしとき八幡宮を假りに此大日社地に祭りたるを以て爾來八幡宮は本社殿の如く大日社神は末社の如くなれり降て慶長年間徳川家康大阪陣の際本多忠勝矢田磯に勢揃あり此時八幡宮に祈禱をなし出陣して大に戦功を收め歸陣後其子忠政更に石清水八幡宮を勸請して之を桑名八幡宮と稱し其後地名に據て矢田八幡宮と改稱す本社合殿神なり明治十七年八月縣社に昇格全三十九年十二月三重縣告示第三百八十號を以て神饌幣帛供進の神社に指定せらる大祭は十月十八日行はる兩日は模造物の奉納及三個の大燈籠の献納とを以て夙に縣下に著れ參詣者絡繹として織るが如し

▲赤須賀神明社 永祿六年九月十一日市場茂左衛門秀高三河國祈願所なる神明社の御靈代を勸請して桑名元赤須賀の地に奉安し氏神として尊信す赤須賀獵師町伊藤俊太郎舊記に依れば祖先市場茂左衛門秀高若干貫にし三河國市場村を領せしに永祿四年故ありて三河を去り氏を伊東と改め其家臣九人を率いて

桑名元赤須賀に來住し家臣をして漁業を営ましむ其後源左衛門に至り桑名城主松平定綱公城廓を擴むるに當り新田を開き漁人を茲に移らしむ即ち舊赤須賀の地なり慶安三年九月廿七日藩費を以て此地に神明社を遷坐せしめらるゝに際し漁人艤船數十艘を等し海上渡御を了りたりとあり此日桑名郡多度村より一目連神社を勸請して境内社とす

本社祭神は天照大神宇迦之御魂命外七神を合祀し境内一目連神社は天目一箇命を祭神とす後揖斐川改修后明治四十三年六月七日現在の社地に奉遷す本社例祭は毎年十月十一日境内社例祭は十月廿七日とす。

▲本統寺 桑名町寺町に在り淨土眞宗東本願寺の別院なり元龜天正の頃本願寺僧徒織田信長と兵を構ふのとき諸國門末寄々評議所を構へ本山に兵糧を貢ぎしが尾濃勢三國の門末此地に一道場を構へ評議所とす當時寺號を定めず今寺と稱す慶長六年教如上人の女剃髮して本寺に來住し桑名御坊と云ひ慶安年中に本統寺と號す當地巨利の一なり

書院のはさまに蜘蛛の巢に馬の刻あり古歌の心なるへし

くものゑにあれたるこまはつなぐとも

二道かくる人はたのまじ

▲法盛寺 菅町に在り淨土眞宗西本願寺の別院なり古は天臺宗の末寺たり三州矢矧村に在り阿彌陀寺

と號す親鸞上人茲に布教して逗留し其法弟忠圓房を茲に住せしむ之より當宗に改む其後應仁の亂を避け
て桑名町に移り今の寺號に改む本尊阿彌陀佛は僧湛慶の作なりと傳ふ長三尺餘御齒具足す世に之を齒吹
如來と稱す。

尊やありがたやとそいはれけり

南無阿彌陀佛のみなのほかには 蓮如上人

▲川口港 町の北端揖斐川に沿ふ東海道の海路七里にして尾張の熱田港に達す俗に七里の渡といふ古
所謂間遠の渡は即ち之なり又佐屋廻とて海路三里津島船の發着せし處なり此處伊勢の入口なればとて港
上に大鳥居を建て大神宮一の鳥居と稱し毎年六月鳥居祭事あり又上流尾濃地方に舟楫の便あり故に該地
方の貨物概ね茲に集散して市街の殷を極めたるも明治三十年木曾川改修の工を竣はると同時鐵路全通の
爲空しく中間驛の觀を呈し復往時の盛況を見すと雖も尙舊態を存し貨物集散の要泊地たるを失はず。

有明の月に間遠の渡して

とまり急かぬ夜半の舟人 (名所圖繪)

いととしく過ぎ行くがたの戀しきに

うらやましくもかへる浪かな (伊勢物語)

舟泊桑名城下 梁 星 巖

遠水無浪日已沈 萬檣轟々立如林

青樓翡翠多年夢 白露兼葭此夕心

斷續弄風江叟笛 丁東搗月女郎碓

聲々未肯無情思 來話蓬窓半夜吟

あれ見やれくはなくわたる追風に

いせとをばりをたつた一時

▲海藏寺 今一色寺町に在り曹洞宗に屬す茲に薩藩義士平田鞆負以下廿二士の遺墳あり近時此地を相
し桑名義士會により忠魂堂の建築なり多年世態に遺されたる忠魂義魂を吊慰し之を祭祀する時運を招來
せる決して偶然にあらず其天下後世を扶掖し献身奉公の大義を鼓吹するに力強き規範を示したるものと
いふへし寶歷三年十二月徳川九代將軍の治世に當り幕府木曾揖斐長良三川の治水工事を薩藩に命ず當時
平田鞆負主命を奉して奉行となり部下を卒ひて具さに辛酸を嘗め粉骨碎身工漸く成る時に寶歷五年三月
なり尾勢濃三州累年水難の困厄を救ふを待たりと雖も巨額の工費は算外の支出となれるを以て責任の重
きに顧み一死以て君公に辨疏せんと決し旅窓の下遙かに思ひを故山に馳せ鞆負以下慄然屠腹して終はる

鬱鬱たる松林緑濃かなる所碑一基往事を語るや切なり俗に千本松と稱せられ兒童走卒も尙よく之を知る東西古今を問はず職に殉ずるの節亦偉なりと謂ふへし。

▲伊勢海苔 伊勢風土記に桑名郡田鶴濱に民戸ある此邊海苔多く青々として連綿五尺餘に及ぶ土民食して飢を救ふ別て濱の地藏岸の青海苔は上品なり地藏院より御城主並に高貴に献上す嚴冬の節採る處のもの格別に色青く清味なり風土記撰集は四百餘年古の事なれば地名は分明ならざるとも土地の物産變らざれば此濱邊の舊名なるべしとあり蓋し現今の赤須賀地方を指したるは推測に難からず抑も赤須賀は木曾揖斐長良三大川の流域にして古來水に恵まれたること多く住民生活の資は總て水産に仰ぎたるは史實の證明する所なり明治三十年九月赤渚水産株式會社を設立し紫菜養殖事業をなしたるも豫期の目的を收むる能はず然るに該養殖事業は前途有望なるに鑑み明治三十五年七月赤須賀漁業組合の設立となり全三十九年三月伊曾島村漁業組合と相謀り之が區劃漁業權を買得し爾來築建養殖を試みたるも成績芳しからず或は先進地方に視察を試み又は専門家に就きて學理の應用を徹底し或は種子場を求め移殖によりて養殖の進歩を圖り製造及貯藏方法を改良し伊勢海苔の名によりて廣く縣外に販路を求むる等拮据經營宜しきを得て今や我海苔は東京本場に比し決して遜色なき優品を製出するに至り大正三年以後高貴へ献上又は御買上の御用命を蒙りたることあり最近に於ける養殖面積は四十五萬六千餘坪築建株廿五萬株産額十

五萬圓前途頗る有望なるに至れり。

▲桑名盆 桑名塗は古來堅質なるを以て有名なりしが之を給仕盆に應用し發賣したるに時好に投し賞讃を博したり文政年間藩主松平樂翁公深く其古雅と堅質を愛玩し幕府献上品として時の畫家谷文晁に命じ羅蕉書を描かしめられしより世の嗜好に投し此圖を愛して止まず遂に専ら蕉書を書き蕉盆と稱するに至れり公の蕉書を描かしめられたるは「人常咬得菜根則百事可做」の古語に思ひ寄られ人能く淡白に甘んじ外界の誘惑に陥らざれば百事成らざるなしの意を寓せられたるなりといふ素此器は表裏共黒青漆塗のみなりしが近來大に其態様を改良して金銀蒔繪を用うるに至れり獨り盆のみならず之が範圍を廣め菓子器會席膳吸物椀等古雅優美の品を製出するに至り隨て販路も擴張せらるゝに至れり。

▲桑名萬古 元文年間桑名の豪商沼波五左衛門弄山と號し意を陶法の研究に委ね初めて窯を發き交趾或は和蘭陀の彩色釉畫を摸倣し其技眞に迫る天明六年幕府の命により東都本所小梅に卜居し薩摩燒に類する釉面に彩畫を着せる一種の陶器を創作し萬古の印を款す後世江戸萬古或は古萬古と稱し今尙嗜好者骨董家の愛玩秘藏する所たり然れども弄山此法を子孫に傳へず名工空しく廢絶に歸す天保年間桑名の骨董家森有節之が再興を企て小向村に窯を築きたるが國産奨励の爲桑名藩主食録を給し研究に盡さしめらる所謂有節萬古と稱せらるゝものにして世之を萬古中興の祖といふ文久明治の初に至り陶業三重郡に擴

まり海外輸出内地の需要等販路益々増大するにやれり當時桑名も陶業盛なりしが漸く衰退し發祥の地名技遂に埋没して之を繼承するものなく當町無二の名産も徒に他の産出に委するを慊き清香堂主加賀月華父祖の業を其弟に譲り往時の聲價を復興するを念とし有力者某々氏等の援護を得大正十年以來錦窯を据え桑名萬古特有の固性發揮に銳意苦心を重ね大正十五年六月本縣より閑院宮家へ献上の香爐窯製を委囑せられ首尾よく御嘉納の光榮を荷ひたる等精巧の作品を出し圖案意匠亦大に見るべきものありと雖も未だ多額の産出を許さざるは頗る遺憾とする所なり。

▲珪瑯鐵器 明治三十四年鍋屋町廣瀬與左衛門珪瑯鐵器の製作を創む時運の進展に伴ひ明治四十年六月株式組織として商號を珪瑯鐵器株式會社と稱す全四十二年六月政府より成型壓搾機械外十四点を借受け大に製品の改善を加ふ大正二年の春より支那輸出を開始す斯界に於て海外輸出は當社を以て嚆矢とす大正三年歐洲戰亂勃發と共に世界に覇を唱へし獨逸國品が東洋市場各方面へ搬入杜絶の機會を捉へ支那は因より海峽殖民地暹羅ビルマ印度南洋諸島埃及墨其西哥等へ盛に輸出せり現今東部亞米利加に販路の擴張を企圖す製品は堅牢にして鮮麗且つ廉價にして耐久力強く家庭什器厨房用具として廣く歡迎使用せらる大正十一年六月商號を三重珪瑯株式會社と變更し専ら輸出品の製作を主眼とす。

▲タオル 明治四十四年六月諸戸タオル合名會社設立せられ百有餘の職工を收容し瓦斯動力によりて

専ら生産能率の向上、染色の方法品質の改善等に主力を注ぎ累年異常の發展を示しつゝあり此間工場の擴張と共に優秀なる機械器具を輸入し他面工業電化に伴ひ電動力に變更し當時數百の従業員を收容し各部に専任技術員を配置し染色意匠品質の改善並に能率の増進等各般に涉り成績の擧揚に努むるあり其成績は頓に擧がり産額は年と共に増加を示し今年年額二百萬圓と稱せり若夫れ其販路に至りては内地主要都市は勿論遠く支那南洋方面に迨び業況益々好望なり。

▲漁網 明治四十一年十月山本重治郎氏個人經營を以て山本製網所を創立し爾來一意特徴ある漁網地の製出に努むると共に一面山本式編網機の發明に腐心する事數年遂に日本式及洋式編網機の發明を完成し十餘種の特許權と新案權を得今や三百有餘名の職工を收容して自家製造の洋式動力大編網機百餘臺を運轉し以て露國南洋北米方面の輸出に仕向け好評を博し刑務所及家庭作業五百餘名を利用して内地向に充て最近年産額百五拾萬圓を算し益々斯界の名聲を博するに至れり。

▲綿糸 明治二十八年十二月十五日初めて發起總會を開き貝塚卯兵衛を委員長に内山如照を専務委員に撰定し設立免許申請書を提出し翌年三月六日之が認可を得て資本金壹百萬圓にて桑名紡績株式會社を設立す同年七月建築工事に着手し三十年四月十五日落成す翌年一月試運轉をなし四月上旬初めて精紡錘數一萬五千三百六十錘よりの紡出十六番手製品を市場に供給するに至れり爾來經營十年明治四十年八月

一日三重紡績株式會社と併合成立し三重紡績桑名工場と改名し設備の改善及製品の改良に努め明治四十三年第二工場新築落成し同年七月より精紡鍾數一萬五千二百鍾及撚糸鍾數三千二百鍾を増鍾し紡出四十二番手二合(撚糸)を市場に供給するに至れり其後大正三年六月廿六日を以て大阪紡績株式會社と合併し東洋紡績株式會社と稱し其一工場として東洋紡績桑名工場と改名す主として内地向製品を生産しつゝ現在に至りたるも尙諸設備の改良及製品の改良に努めつゝあり。

▲濱の地藏 龍宮山地藏院は俗に濱の地藏と呼ぶ赤須賀の東堤揖斐川畔に在り本尊石地藏佛は往時貝洲の濱にて漁夫の網にかゝりたるを松の五叉の岐れたる處に安置せしに夜々龍燈の上りたればとて其松を龍燈の松と稱し堂宇を建て之を安置したり當山は眞言宗にして大梵刹なり開基詳ならず天正十三年酉十一月廿一日大地震のため堂閣一時に崩壊され小堂のみ小松原の中に残り寛永八年未秋大風の時小堂も亦破損す寛永十三年子住持照山法印本堂を再建す修驗宗當山派に屬する其後承應三年午攝津守定良公の時堂を堤の傍に移す寛文九年酉秋大風あり堂宇再び破損す全十年戌四月城主の御取立により舊觀に復す明治三十年三大川改修によりて今の地に堂宇を奠めたり當時地藏堂の前に常燈明あり尾張熟田其他地方よりの夜中廻船の目標とす寶曆年中より始めたりと傳ふ堂側に芭蕉翁の白魚塚あり自筆の俳句を刻す

曙やしら魚白き事一寸

蓋し白魚は此地方の特産にして風味佳良他の追隨を許さざるなり此地眺望佳絶なるを以て春秋の交訪客多し殊に沙干狩には最も良し。

夕陽淺渚を照らし風を孕みて去來する漁船水天髣髴の間に隱見する様眞に一幅のパノラマに似たり。

▲鍋屋堤の櫻 大字住吉町地先西桑名町大字福島に至る揖斐川に添ふ堤上約一杆に亘り櫻樹の隧道あり之を鍋屋堤の櫻と呼ぶ先代諸戸清六翁の植うる處にして其數當時一萬本を數へたりといふ桑名驛より約一杆六右順水を隔て、長島に對し左所田畑相連りて多度江勢の諸峰を望み風景甚だ佳なり春風駘蕩の交爛漫たる艶姿を呈し觀客多し夏季灼熱の苦を其綠蔭に避けて行客の來往を慰め四時風致に富む。

▲桑名郡西桑名町 戸數一、六五九人口七、五九二面積一三、七二六方杆(〇、八九〇方里)往古は桑名藩松平氏治下にあつたが町村制實施以來大山田村と稱して來た大正二三年頃より大字桑名を中心として附近大いに發展したので昭和三年御大典を期して村民多年の願望を達して町制を實施し西桑名町と稱するに至つた大字は十二あり役場は大字桑名にあり現町長は松本長藏氏助役は事務に精通な水谷傳兵衛氏收入役は加藤肇氏である教育機關には二小學校の他縣立桑名中學校がある。

▲照源寺 西桑名町大字東方に在り(桑名驛より三丁)東海山泥沔院と號す淨土宗鎮西流義にして智恩院の末寺たり公家菩提所の一なり寛永元年松平隱岐守定勝公御逝去定行公臺許を得一寺を創建し崇源寺

と稱す遠州掛川天然寺傳舎三甫を以て開基とす寺領三百石を附せらる後桑名藩祖大鏡公美濃大垣より當城に御移りありたるとき智恩院より深譽長意を請ふて崇源寺住職となし寺名を照源寺と改め二百石を附せらる爾來桑名藩主の菩提所たり寺域高き所西方に櫻の老樹あり金龍櫻と呼ぶ藩祖定綱公撰津金龍寺より分株移植せられたるものなりといふ鎮幹榎牙根際より八岐して空を益ひ枝條繁茂し地方稀有の名櫻なりしも惜むへし齡將に竭きんとするを以て茲に幼樹を植う二十四番の春風梢頭を訪づるゝのとき爛漫妍を呈し往時を語るに似たり花時曳杖の墨客多し

花さかりくまある色のゆふばへに

木の下蔭をもちてあかさん

定綱公

なかめつゝ花にこゝろは入相の

かねてぞおもふあかぬ名残を

定綱公

寸蔭可惜勢陽春

山寺樓閣招雅賓

今日遊遊爲賞味

金龍名品遠移新

▲播磨山の松茸狩 桑名町を距る僅かに十八丁西桑名町に屬す松樹蒼鬱として幽盡を蔽ふ夙に松茸の産出を以て名あり乃ち期節に至れば松茸狩と稱し老來り少集まり林間酒を煖めて香茸を炙ふるあり醉歩

跟踏婀娜の北くるを逐ふて痴態を極むるあり亦天國の樂園たり。

▲時雨蛤 蛤は二大川の海に吐出する所即ち河海の潮流撫梅適良の地に産す是れ其の形狀頗る大に味の美なる所以か貝合せなどに用ゆる最も妙なり時雨蛤は十月頃より製し始む時雨と名付けたる眞に此に出づると云ひ或は時雨蛤を製する時大名店先を通り掛りてこれは何なるやと問ひしに此の時恰も時雨の降りければ天氣の事ならむと誤りて時雨と答へしが聽て此蛤の名とはなれるなりともいふ近時製法に種々改良工夫をめぐらし販路亦漸く擴れり従來曲物に入れたるを現今は多く罐詰として數年月を保ち遠路の携帯にも頗る輕便なり

いまぞしる間遠の浦の蛤を貝合とぞ拾ふものかは (宗祇)

▲白魚 白魚も蛤と共に木曾揖斐兩川の注入する河口に産す漁期十月より翌年五月に至る然れども二月の交を最も可とす錨留又は杭止の張網にて之を漁獲す幕府時代に於て蛤と共に献上品の一たり當時は目刺として献上せり色純白にして味極めて美なり古は多く乾魚として地方へ販出せしが今は汽車の便により生魚のまゝ需要地に輸送せらる殊に時雨煮又は紅梅煮と稱し風味上品なるを以て罐詰として各地に販路を開くに至れり。

員辨郡概要

戸數 九、四七六 人口 四三、九四二
面積二五五・五八二軒（一六・五七一方里）

◆概観 本郡は本縣の最北端に位し、東は桑名郡、北は岐阜縣に西は山を隔て、滋賀縣に、南は三重郡に夫々隣接してゐる。員辨川は郡の中央を西北より東南に貫流して伊勢海に入り、西北には龍ヶ嶽、三國岳、藤原ヶ嶽等並立つて郡内一圓に丘陵が起伏してゐる。

◆沿革 藩治の頃は桑名藩及び忍藩に屬し、桑名藩領は松平越中守定敬が土地を沒收せられてから尾州侯の所領となり、明治に至つて度會、忍、桑名縣と改稱し、同二十二年町村制實施と共に二十二ヶ村となつたが、次で二十一ヶ村となり、近年阿下喜に町制を實施してからは一町二十ヶ村となり現在に至つてゐる。

◆交通 山地多く交通概して不便であるが、近年阿下喜、桑名間を走る北勢鐵道が郡の中央を貫通して省線へ連絡の便を得るに至つた。通信機關は郵便局五（内集配局四、無集配局一）、郵便取扱ひ所一、電報取扱ひ所四、電話加入一三ヶ町村である。

◆遊覽地 平群神社（久米村）猪名部神社（稻部村）照光寺（石樽村）鴨谷聖寶寺（阿下喜町）藤原ヶ嶽、

篠立の風穴（立田村）等

◆産業 主なる産物の年産額を示せば、農産（三、一三六、四六二圓）林産（一九六、七一四圓）蓄産（一七八、八二七圓）工産（一、七〇七、四九三圓）其の他、亞炭、鮎等で、生産年總額は五、二五三、四〇〇圓である。産業団体一七六、實業団体三四を有してゐる。

其他 教育機關は小學校二一校の他中等學校（縣立員辨實業女學校）一校がある



山紫水明の地にして

清涼を覺ゆる北勢著名の阿下喜町

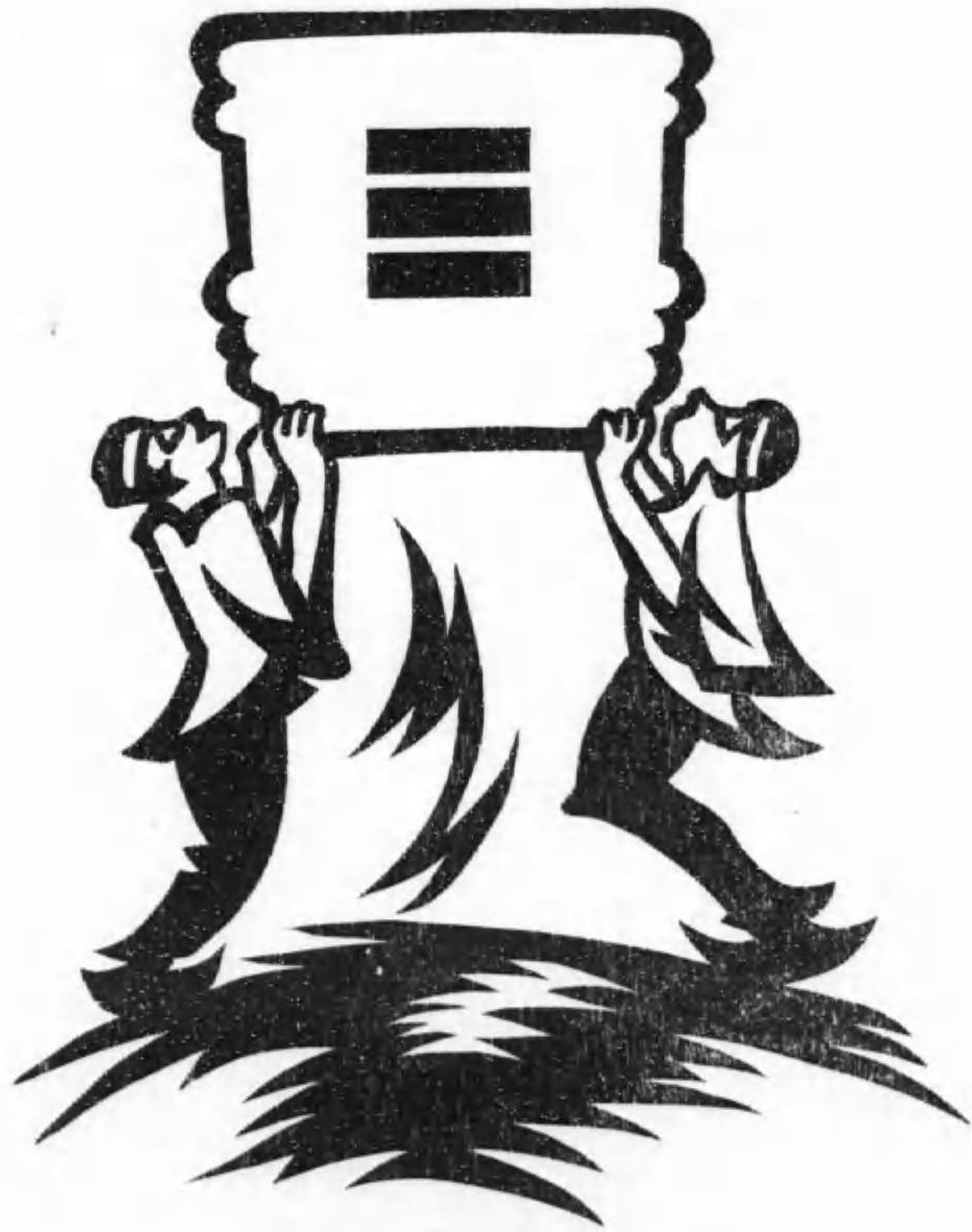
御料理旅館

昭榮館を訪ねて

桑名を起点とする北勢電鐵により約五十分にして終驛山の町阿下喜町に達す。此の町に有名な森島氏が經營せられてゐる昭榮館は設備の完全調理の新鮮は勿論顧客本位の奉仕は非常なる人氣を博し北勢阿下喜に歩するもの必ず昭榮館を口にするはこの間の實情を雄辯に物語つてゐるものである。經營の方針と其の位置は時運にめぐまれ歳を重ねて隆昌に赴き旅館の構造完美さらに特殊設備を加へ而かも萬般に對し細心の注意を拂ひ、家族主義的な待遇設備と相俟つて異常なる隆昌をいたしてゐるのである。

名士の來り宿するもの亦尠とせず經營者森島氏は飽くまで顧客本位經營に主点を置き、春は花、夏暑を知らず、秋はもみぢ、冬は雪見、北勢阿下喜の俗塵離れたるこの仙境を天下に知らしめんと經營畫策これ大いに力め今日に及びその民衆的なる經營はさり乍ら英雄的手腕は業界に敬服と信頼を深うして北勢山の町阿下喜を訪ねる人、氏の經營方針設備の完全調理の新鮮顧客本位の奉仕は非常なる人氣を博してゐる。(寫眞は昭榮館の全景)

味 嚕 醬 油



佐藤 信之助

三 重 縣 桑 名 港
電 話 長 一 〇 九 番

株式の賣買は

商工大臣の認可せし取引員に

賣買せらるゝが安全且つ確實なり

手数料は………名古屋が一番安い

名古屋株式取引所所屬取引員

カ 奥田晴一商店

名古屋市中區南吳服町一丁目

電話中

〇〇一—
五六六
三五四
八三五
番番番

市場特設 三九番

創立 明治十五年
資本金 貳千六拾萬圓

市内支店 南支店 堀川支店 榮町支店 幅下支店 東支店
熱田支店 赤塚支店 中市場支店 古渡支店 東陽町支店
新榮町支店 清水支店 中村支店 南園町支店 東片端支店
傳馬町支店 大池町支店 大曾根支店

名古屋市中區榮町一丁目

株式會社 名古屋銀行

頭取 恒川小三郎
常務取締役 小尾悅太郎
全 長尾木廣二
全 鈴木廣二

各地支店 東條支店 京都支店 深川支店 新宿支店 淀橋支店 大坂支店 京都支店
五條支店 豊橋支店 一宮支店 四條支店 瀬戶支店 大岡支店 大阪支店
岐阜支店 半田支店 西宮支店 岐阜支店 福井支店 桑名支店 津島支店
笠松支店 半田支店 多治見支店 土岐支店 古知支店 瑞浪支店 蒲郡支店

高級飲料 ルーピラクス 特約店

天下の銘酒



特別大吟醸國春の本場酒ニ優ル

醸造發賣元

島清酒店

電話一六六番

祝伊勢新聞社發展

桑名郡町村長會一同

祝伊勢新聞社發展

員辨郡町村長會一同

創刊明治十一年



夕刊 朝刊

日曜夕刊。日曜附録發行

◆確固不拔！五拾六年の歴史

嚴正中立！自ら集る絕對信賴

==新聞報國・讀者本位==

三重縣津市丸之内

株式會社伊勢新聞社

電話 11・125・870・600・601

支局 {東京・大阪・名古屋・宇治山田・四日市
桑名・松阪・伊賀上野・鳥羽・久居
尾鷲・木ノ本・新宮}



株式會社

大垣共立銀行

頭取 安田善兵衛

桑名支店

桑名殿町

電話 二四三六番

創立 明治拾壹年
資本金 壹千萬圓
本店 津市



株式會社

百五銀行桑名支店

電話 四〇〇四番

北魚町出張所 (電話 四番)

矢田町出張所 (電話 一五九番)

長島出張所 (電話 四番)

一 資本金 壹千萬元
 一 積立金 七百參拾壹萬圓
 一 大株主 三重縣



三重縣農工銀行
 桑名支店

桑名本町 電話四〇二番

縣金庫 桑名出張所事務取扱

資本金 貳千六十萬圓
 積立金 壹千餘萬圓



名古屋銀行桑名支店

電話 一五六番
 電話 一五五番

爲替取組内外樞要地 二千餘ヶ所

▲國庫金取扱日本銀行代理店

行務は確實懇切を旨として御取扱可申候

優 良
清 酒



釀造元 桑原利作商店

三重縣桑名町

電話四五四番

優 良 清 酒



釀造發賣元
波切屋酒店

電話一三六番

業 務

水道衛生土木建築
改良便所淨化裝置
換氣乾燥裝置
室內裝窓掛敷物
附屬器材材料販賣

設 計 施 行

一般強度計算事務

鐵骨鐵筋木造、建築

桑名西一色町

設計、監督
顧問、相談

黑宮建築事務所

工 築 士
早大工學士

黑 宮 五 朗

長電話四八〇番

サニタリ商會

桑名 (電話八五〇番)
四日市 (電一〇一四番)

諸 戶 殖 産 株 式 會 社
三 重 養 魚 株 式 會 社
株 式 會 社 三 重 農 場
諸 戶 合 名 會 社

三 重 縣 桑 名 町
電 話 二 六 番 三 七 一 番

桑名旭橋通り

五井病院

病院用 七五一番

内科

院長 醫學博士 五井 義雄

副院長 醫學士 安藤 富夫

藥劑師 金澤藥學士 八田 進

レントゲン技手 村川 茂

小兒科

診察受付時間

自午前八時 至正午十二時

休診

毎月第一第三日曜 三大節

御菓子司 花の舎

電話 一六一番

設立年月 大正元年八月
資本金 五拾萬圓

北勢鐵道株式會社

社長 松本長藏
支配人 佐藤三郎

事務所 電話三二二番
西桑名驛 電話二六九番

三重乘合自動車株式會社

電話桑名四六七

全社 菰野營業所

電話菰野 四八

英 佛

御料理

桑名江戸町

東 洋 軒

電話五六四番

軽い袂にミドリ
の風をはらませて、
海邊へ！山へ！野へ！
御家族御同伴
で一日の御清遊を
試みられるのも、
初夏にまつて、こ
よなく嬉しいもの
一つです

手輕で氣の利いた
お辨當は
ぜ ひ

御料理 若 卯

桑名江戸町 電三四二番

一、創 立 大正三年三月
一、資本金 貳拾萬圓

三重縣桑名町

桑名瓦斯株式會社

社 長	貝 塚 榮 之 助
常務取締役	吉 田 慶 次 郎
取 締 役	安 田 常 次 郎
全 監 査 役	水 野 房 治 郎
全 監 査 役	桑 谷 新 七 郎
全 監 査 役	平 野 助 右 衛 門
全 監 査 役	川 瀬 英 太 郎

大旅館——大料亭として
有名な——昭榮館へ！

北勢阿下喜町

昭
榮
館

電話六五番

▽當館の誇り

眺望絶佳
閑望絶佳
料理之美
氣味靜樂

御料理仕出し

赤須賀

魚圓

鮮魚卸小賣

電話五〇三番

日の出市場(鍛冶町)

魚圓支店

電話九七六番

御辨當、折詰は大勉強致します……

桑名西鍋屋町

電話八〇八

安達齒科醫院

診察

午前八時より

午後八時まで

休日

第一・第三

日曜日

日常の衛生及び

「病の相談は」

「是非當藥局へ」

傳染病流行季節が参りました。皆様御注意下さい
くすりあわせどころ

桑名町八間通

モリタ藥局

電話五〇一番呼

元愛知縣衛生課勤務

明治藥學士

宮島武夫

三菱

海上火災

保險株式會社代理店

富國徵兵保險相互會社代理店

桑名町清水町

内外木材
座敷用材
建築用材
板類一切

卸小賣

檜物屋材木店

水野茂助

電話二四五番

ヒコ一機模型

電氣玩具

蒸氣玩具

ボート具

製作材料

研究の方々の參考資料並手工用として御利用を願います

桑名宮通り

石原玩具店

電話七〇五番

桑名郡在良村

淺井眼科病院

院長 淺井平一郎

桑名郡在良村

三 生 博 物 會

主 唱 者

淺 井 平 一 郎

愛ハ永遠ニシテ

良品ヲ賣ルハ永遠ノ

商 略 ナ リ

桑名宮通

資生堂化粧品

千 葉 藥 局

有名新藥

電話五六〇番

計量器

田 町 支 店

醫療器械

京 町 支 店

株式

「顧客本位誠實敏速」

名古屋株式取引所短期取引員

◎弘 大橋弘吉商店

名古屋市中區南伊勢町一ノ八

電話中局

六八七番 三四九一番
六八八番 三四九二番
六八九番 三四九五番

市外専用東

九二番

自宅 名古屋市中區大池町一ノ五六

電話南局 三七七二番

公債 株式 現物 賣買

員辨郡阿下喜町

渡邊株式店

渡邊覺右衛門

電話(長八番 六三番)

電略(ワタ)又ハ(ワ)

振替名古屋一、四二五

桑名での御食事は!!!

旭ビルディング階上

旭 食 堂

枝 松 龜

電話九一二番

と わ な 食 堂
省線桑名驛前

於全日本國產洋服博覽會
最高名譽賞受賞領



今般斯界に於ける空前の
大博覽會に於て最高賞を
受けたるは偏に各位の絶
大なる御鞭撻の結果に依

るものご深く感銘致して
ゐます何卒今後一層の御
指導をお願い致します

店理代社會式株フエンソーリ
染品物織毛崎矢京東
店理代約特社會式株造製ムーネ蝶胡都京

店 服 洋 岡

紗服洋附

り通間八驛名桑縣重三

番八四三ー四版 穴
座口替振 番八六七電話電
番五〇六五ー屋古居

利廻よき貯金

三重相互無盡株式會社

三重縣桑名
電話六三五番

便利なる融通

銀行一般の業務

確實に御取扱ひ可申候

株式會社

三重縣農工銀行

大泉原支店

最新柄荷揃ひ！

桑名魚ノ棚

帶新吳服店

電話一七番

借るに便利—預けつて有利

有限責任
信用組合

桑名金庫

電話七三四番

早く組員とつながつて御利用を

毛織專門

近藤毛織工場

近

藤房多吉
桑名郡
電話七取二〇番

桑名盆
 桑名吉津屋町
 源万久村源助
 電話三四五番
 振替 東京一七八七六
 名古屋一七八七六

膳碗塗物類
 簞笥嫁入道具

北勢名産の代表表

多度名産

多紅砂

度梅糖

豆燒漬

製造元

本家桔

梗

屋

水

谷

長

平

電話桑名郡七取三一番

昭和八年七月一日印刷
昭和八年七月五日發行

【非賣品】

不許複製

三重縣桑名郡西桑名町大字桑名四一七ノ一八
編輯兼發行人 鈴木 本 東 吾

三重縣桑名郡桑名町大字桑名三九六番地
印刷者 長 瀬 兵 吉

三重縣桑名郡桑名町大字桑名三九六番地
印刷所 長 瀬 印刷所

發行所 三重縣桑名郡西桑名町大字桑名四一七ノ一八
株式會社伊勢新聞社桑名支局

終

